



2027

— STATE OF —
**DESIGN
& MAKE**

デザインと創造の業界動向調査

 **AUTODESK**



目次

04 はじめに

07 デジタル トランスフォーメーションは
目的地ではなく道のり

15 AI 活用においては必要性和
実装上の課題が交錯

25 サステナビリティは
理想から競争優位性へ

32 コンバージェンスが
企業のレジリエンスを向上

42 まとめ

45 付録

COO からのメッセージ



この『デザインと創造の業界動向調査』は毎年、私たちを取り巻く世界を形づくる人々から学ぶ機会を与えてくれます。人々は私たちが暮らし、働く建物を設計し、日々頼りにしている製品を製造し、コミュニティをつなぐインフラを構築し、私たちに刺激を与えるメディアや体験を生み出しています。こうしたデザインと創造の分野に携わる人々は、一丸となって現代の重要な課題の解決に取り組んでいます。

今年の調査は、かつてない変革のさなかに実施されました。人工知能によって仕事の進め方が大きく変化し、サステナビリティがビジネス上の優先事項となっています。経済の不確実性、人材不足、顧客の期待の高まりにより、企業（ここでは教育機関や非営利組織も含めています）は業務の進め方の見直しを迫られています。変化のペースは衰えを見せず、その変化を主導する人々に求められるものも増え続けています。

これが、本レポートを発行する理由です。本レポートは、調査データを提示するだけでなく、企業の対応状

況や進展している分野、成功につながっている取り組みを理解する機会となります。毎年、私たちは、仕事、コラボレーション、イノベーションをより良い形で推進する方法を見いだしている多数のリーダーから、新たなアイデアを得ています。

オートデスクは、イノベーターがデザインと創造を通じて、より良い世界を実現できるよう支援するという使命を掲げています。本レポートのインサイトが、自社の進捗状況の相対的な評価、前提の見直し、そして今後いかなる変化にも対応し、ビジネスを強化できる新たな機会の発見に役立つことを願っています。

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Steve Bram'.

スティーブ・ブラム

エグゼクティブ バイス プレジデント兼最高執行責任者
オートデスク

主な用語



デザインと創造

人、プロセス、テクノロジーのコンバージェンス（融合）によって、複雑なアイデアを現実の体験へと具現化することです。単なる仕事の進め方ではなく、業界横断的なコラボレーション、相互に連携するデータ、サイロを打破するイノベーションを原動力とする考え方であり、何百万人もの人々がより良い世界を創造できるようにします。



デジタル成熟度の高い企業

デジタル トランスフォーメーションの道のりを「目標達成に近づいている」または「目標を達成した」と評価している企業です。本レポート全体を通じて、デジタル成熟度とは、新しいテクノロジーを導入するだけでなく、デジタル能力を継続的に進化させる能力を表しています。



AI リーダー

AI の導入状況を「目標達成に近づいている」または「目標を達成した」と回答し、AI のビジネスへの統合が高度な段階まで進んでいる企業です。



サステナビリティ リーダー

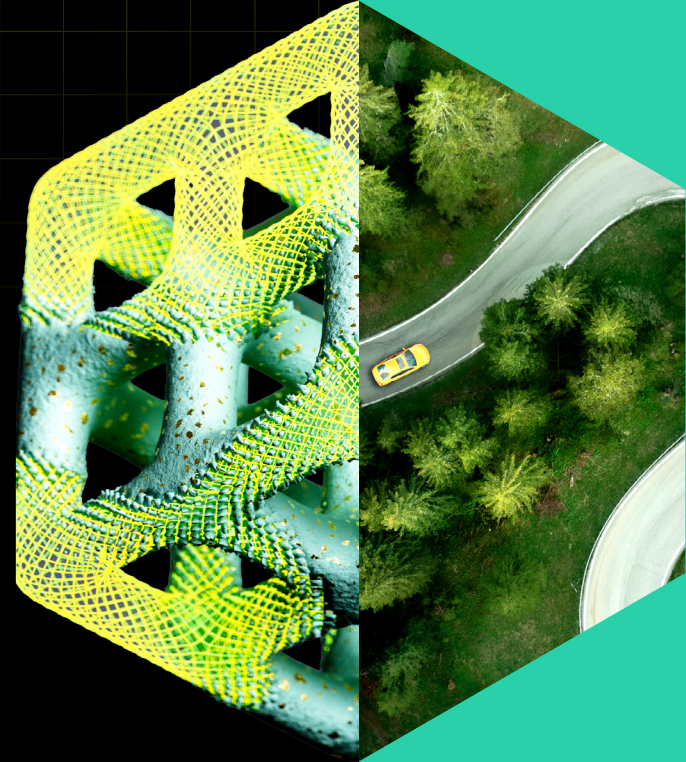
自社が業界内でサステナビリティを主導する役割を果たしているという記述に対して「強く同意する」と回答した企業であり、サステナブルなビジネス慣行に対する企業としてのコミットメントとリーダーシップの両方が反映されています。



ペースセッター

デジタル成熟度、AI 導入、サステナビリティのすべての領域で先行する企業です。ペースセッターは、回答した業界のリーダーと専門家のうち、わずか 11% を占めるにすぎず、事業業績、レジリエンス、変革の成果のあらゆる面で、同業者を一貫して上回っています。

はじめに



ペースセッターの台頭

ビジネス リーダーは、これまでも常に変化への対応を迫られてきました。現在では、複数の変革に同時に対応しています。人工知能によって仕事の進め方が大きく変化し、デジタル テクノロジーは常に進化し続けており、サステナビリティに対する期待は高まっています。経済の不確実性も続いています。デザインと創造の業界全体で、リーダーは成長を実現し続けながら、これらの優先事項のバランスを取っています。

今年の調査結果から、もはや1つの分野で卓越するだけでは成功できないことが示唆されています。最も大きな成果を上げている企業は、デジタル トランスフォーメーションの推進、AI の導入、サステナビリティの追求に個別に取り組むのではなく、相互に強化し合う形で、これらの能力を総合的に高めています。私たち

は、こうした企業を「**ペースセッター**」と呼んでいます。

本調査に参加した 5,500 人の業界リーダーおよび専門家の中でも、ペースセッターは一貫して際立っていました。ペースセッターは回答者のわずか 11% ですが、幅広いビジネス指標でメインストリームの企業グループを上回っています。マクロ経済および地政学的な混乱に対する備えができていないと回答した割合は 34 ポイント高く (93% 対 59%)、業績が期待を上回った割合も高く (85% 対 50%)、デジタル トランスフォーメーションがイノベーションの促進につながったと回答した割合も高くなっています (44% 対 29%)。ペースセッターはまた、デジタル トランスフォーメーションが人材の獲得と定着に役立ったと回答した割合 (33% 対 21%) と、サステナビリティへの取

り組みが人材の獲得と定着に役立っていると回答した割合 (92% 対 63%) がいずれも高くなっています。

これらの企業を際立たせているのは、特定のテクノロジーや取り組みではありません。彼らはデジタル基盤に投資し、AI を実践的に活用し、ビジネス上の意思決定にサステナビリティを組み込むとともに、従来の境界を越えて人、データ、ワークフロー、専門知識をつなぐ取り組みを拡大しています。

以降のページでは、業界リーダーがこれらの企業から何を学べるかを探ります。それぞれの取り組みには、競争優位性が個別の施策ではなく、時間の経過とともに相互に強化される能力を培うことで生まれることが示されています。

ペースセッターは
回答者のわずか 11% ですが
その実績は同業者を
一貫して上回っています

85%

のペースセッターが、
期待を上回る
業績を達成

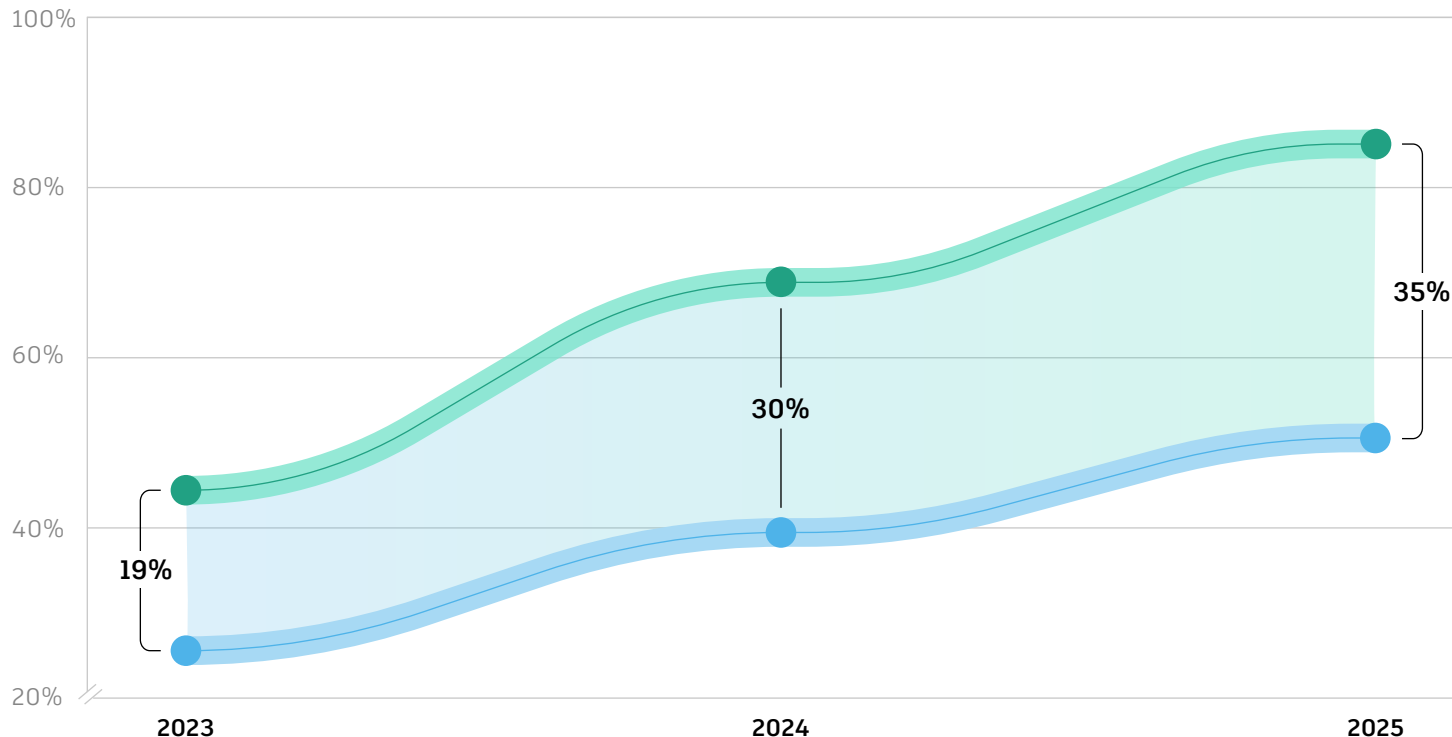
93%

のペースセッターが、マクロ
経済および地政学的な
変化に対応する準備
ができていますと回答

ペースセッターは一貫して期待を上回る成果を達成

自社の業績が平均を上回った、または極めて優れていたと回答したリーダーの割合が、メインストリームの企業グループより大幅に高くなっています

● ペースセッター ● メインストリーム



調査の質問: 過去3年間の各年において、会社の期待と比較して、貴社または貴組織の業績はどうでしたか? 回答者には、2023年、2024年、2025年の業績を評価いただきました。
 上位2項目 = 「平均を上回る業績」および「極めて優れた業績」。メインストリームおよびペースセッターの定義については、47ページを参照してください。

「デジタル化によってデータが生み出され、AIによってそのデータが実用的なインテリジェンスへと変換されます。そして、そこから得られる最も大きな成果の1つがサステナビリティです。それぞれを個別の課題として捉える企業は、一体的に推進することで生まれる変革的な価値を見逃すおそれがあります」

PK VIJAY 氏

ITC Limited (インドのコルカタを拠点とするコングロマリット) プロジェクト担当ゼネラル マネージャー兼執行委員会メンバー (中央プロジェクト組織)

デジタル トランス フォーメーションは 目的地ではなく 道のり





進捗は測定できる。期待される水準は変化している。

デジタル トランスフォーメーションは、デザインと創造の業界全体で測定可能な成果をもたらしています。ほぼすべての企業（98%）が測定可能なビジネス上のメリットを得ていると回答し、約半数（49%）が変革目標の達成に向けて大きく前進したと回答しています。

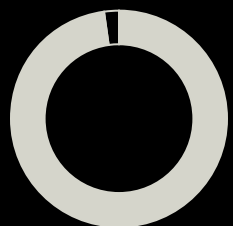
その一方で、自社のデジタル成熟度が高いと回答する企業は減っています。前進を続けているにもかかわらず、デジタル成熟度が高いと回答した割合は、2024 年

の 63% から 44% へと低下しています。この変化は、変革の鈍化を示すのではなく、AI、相互に連携したデータ、自動化、クラウドテクノロジーによって仕事の進め方が変わる中、リーダーがデジタル成熟度に求められるものを再定義していることを示唆しています。

かつてデジタル リーダーを際立たせていた能力が、今や当然のものとして求められるようになっています。デジタル成熟度の捉え方は、最終的な目的地から、テク

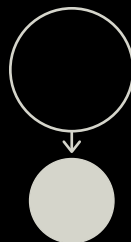
ノロジー、顧客の期待、市場の変化に合わせて継続的に強化する能力へと変わりつつあります。

オートデスクの製品開発および製造ソリューション担当エグゼクティブ バイス プレジデント（EVP）、ジェフ・キンダーは、次のように述べています。「デジタル成熟はあくまで継続的な道のりであり、最終的な到達点ではありません。投資を止めた瞬間、すでに後れを取っているのです」。



98%

デジタル トランスフォーメーションにより測定可能なメリットを得ていると回答したビジネス リーダーの割合



自社のデジタル成熟度が高いと回答する割合は減少しています

63% から 44%

2024

2027

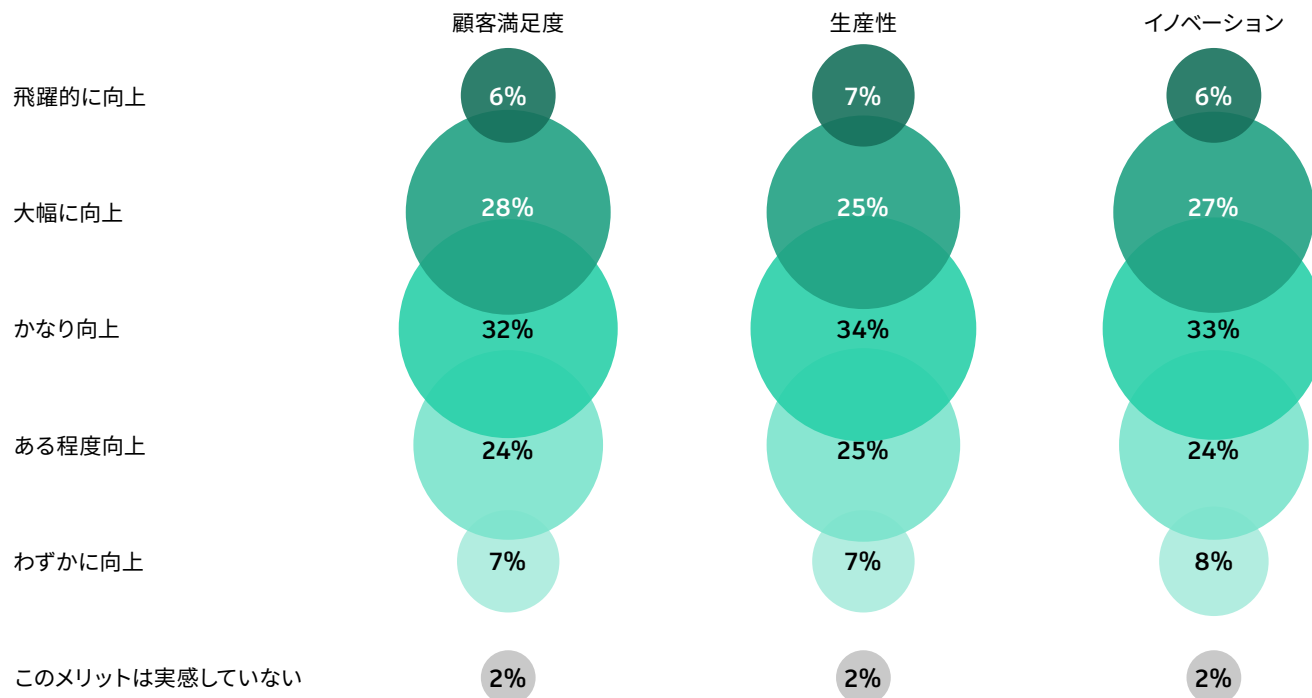


88% 対 60%

デジタル製品およびサービスを優先する割合は、ペースセッターの方がメインストリームの企業より大幅に高くなっています

引き続きデジタル トランス フォーメーションが デザインと創造の業界の企業で成果を実現

リーダーの 3 人に 1 人が、デジタル トランスフォーメーションによって
成果が 75% 以上向上したと回答



調査の質問: デジタル トランスフォーメーションの主なメリットとして、以下の項目を特定しました。過去 3 年間で、デジタル トランスフォーメーションによって「メリット」はどの程度向上しましたか?
6 段階評価: 「わずかに」、「ある程度 (25%)」、「かなり (50%)」、「大幅に (75%)」、「飛躍的に (100%)」、「このメリットは実感していない」。数字は各項目を選択した回答者の割合です。
四捨五入のため、数値の合計が 100% にならない場合があります。

ビジネスにおいて、デジタル トランスフォーメーションの有効性は、ますます明確になっています。2/3 の企業が顧客満足度・生産性・イノベーションが少なくとも 50% 向上したと回答し、約 1/3 の企業は、その成果が 75% 以上向上したと回答しています。

議論の焦点は、デジタル トランスフォーメーションに効果があるかどうかから、その基盤をどのように強化していくかへと移っています。

2/3

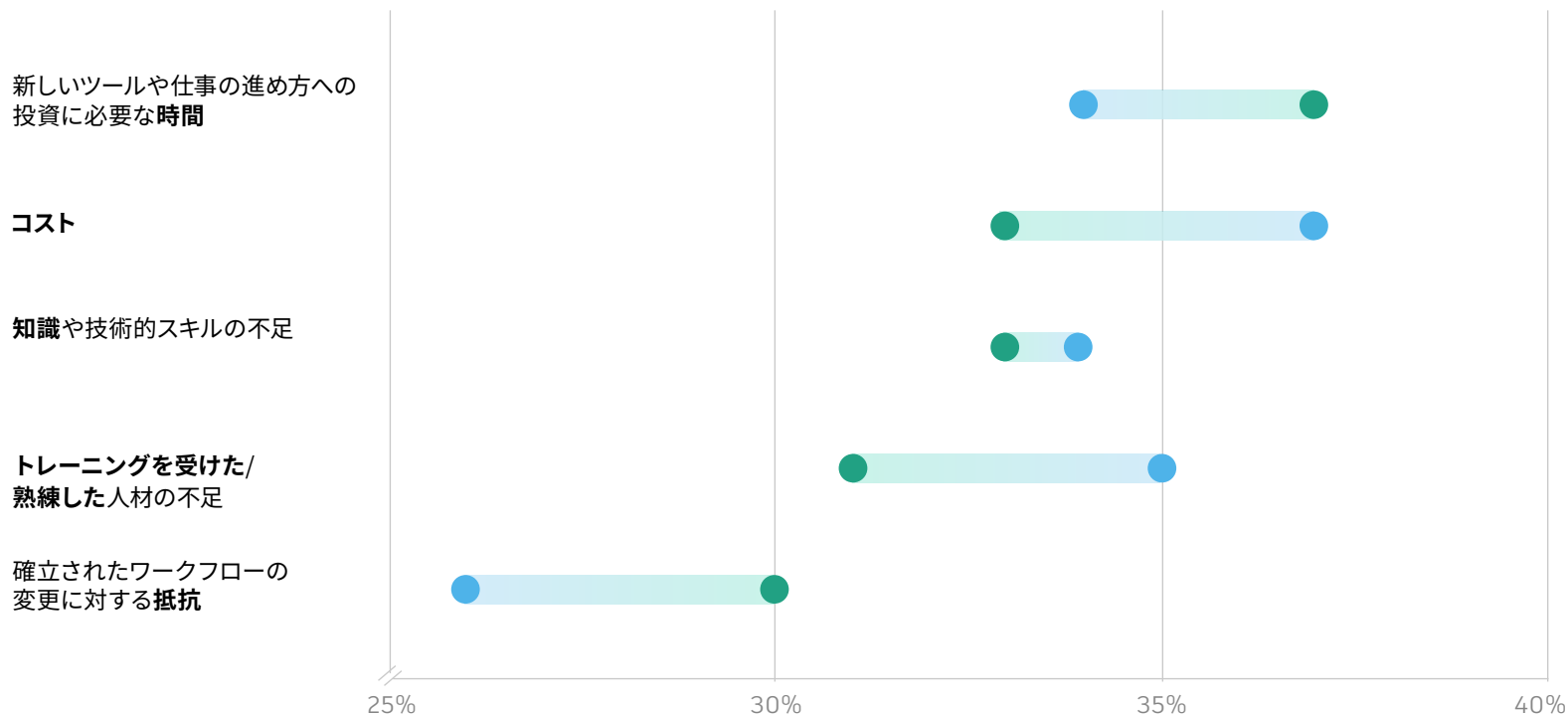
デジタル トランスフォーメーションによってイノベーションが 50% 以上向上したと回答する企業の割合



デジタル トランスフォーメーションの最大の障壁は、コスト・人材・時間

ペースセッターにとっての最大の課題は時間の確保

● ペースセッター ● メインストリーム

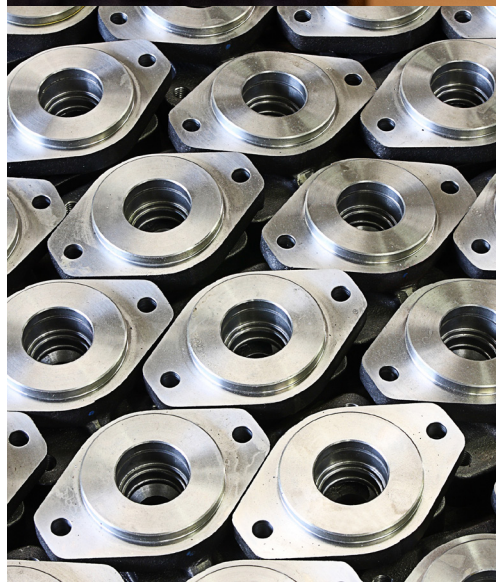


調査の質問: 貴社または貴組織におけるデジタル トランスフォーメーションの障壁は何ですか? 各項目を選択した回答者の割合。複数回答可。
メインストリームおよびペースセッターの定義については、47 ページを参照してください。

制約となっているのは もはやテクノロジーではなく 人材の能力

コストは依然として大きな課題ですが、進歩を続けるうえで制約要因となりつつあるのは、テクノロジーそのものではなく、人材の能力であるという認識が企業の間で広がっています。

最大の障壁として、少なくとも1つのスキル関連の項目を挙げたのが56%であるのに対して、コストを挙げた割合は37%でした。



「まず、デジタル基盤を構築する必要があります。
その基盤が整えば、その上に新たな能力を積み上げることができます」

三戸景資氏

清水建設株式会社（東京を拠点とする建設会社）生産技術本部
建設 DX 基盤部部長



ソリューション スポットライト

コンセプトから映像へ: SOKRISPYMEDIA が クリエイティブな構想の 規模を拡大

MrBeast が『Beast Games』シーズン 2 のさらなるスケールアップを決意したことで、SOKRISPYMEDIA には大作映画に匹敵する制作インフラを持たずに、その制作要件に応える方法が必要になりました。チームは、AI を活用したモーション キャプチャによって制作ワークフローを変革し、実写映像を完全に編集可能な 3D シーンへ直接変換することで、プリビズと最終的なルックの開発を一貫性のある効率的なプロセスに統合しました。

その結果、小規模なスタジオで実現できることの範囲が広がり、適切なデジタル ツールとワークフローにより独立系スタジオと業界最大手の制作会社との差を縮められることが証明されました。

➔ [事例の全文を読む \(英文\)](#)

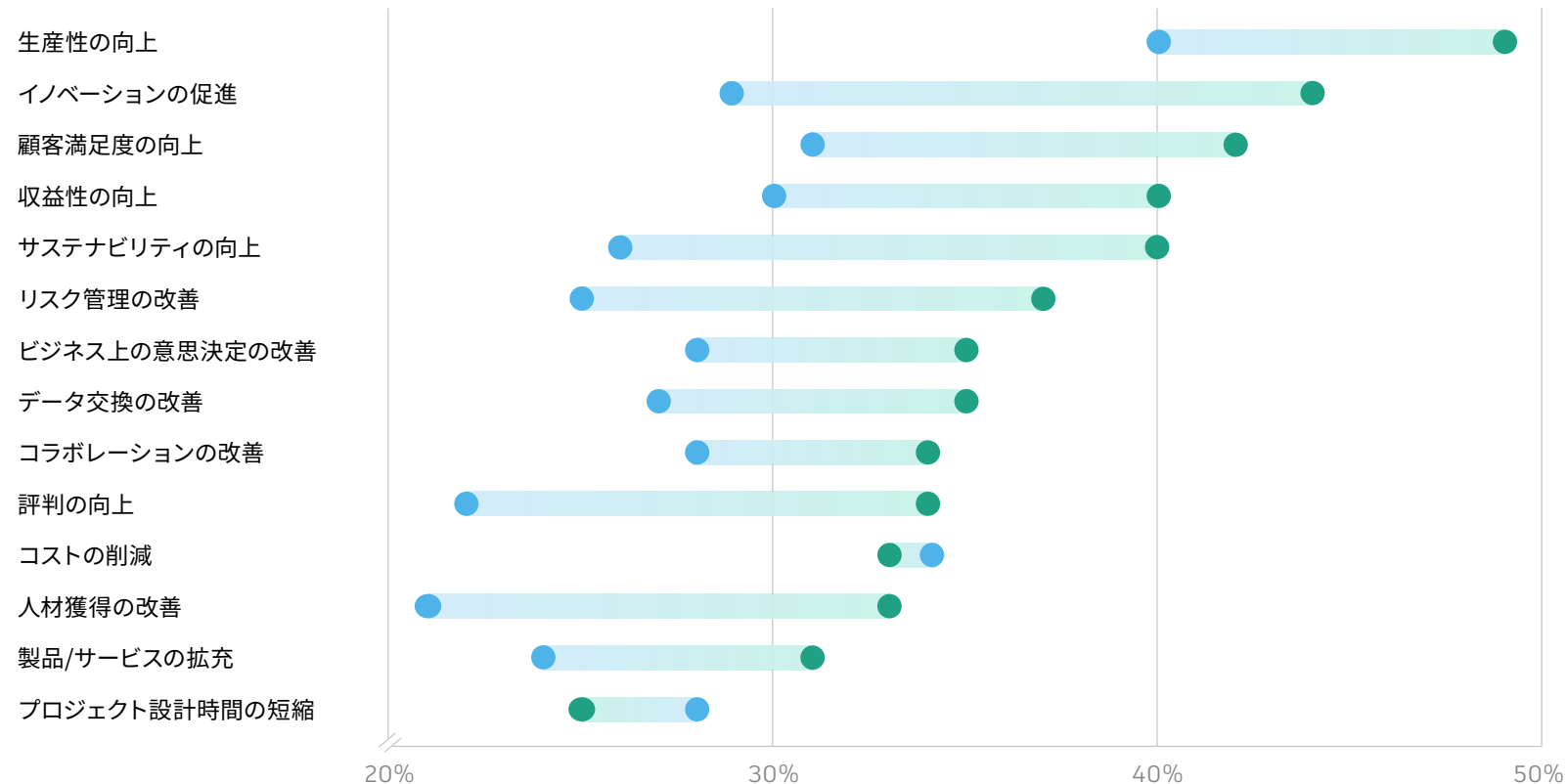
「デジタル成熟度が低下したとは考えていません。各企業が自らの現在地をより現実的に把握するようになっただけだと思います」

NIELS TRELDAL 氏
COWI（北欧をルーツとするグローバルなエンジニアリングおよびコンサルティング企業）シニア テクニカル ディレクター

ペースセッターはデジタルトランス フォーメーションから並外れた恩恵を享受

ほぼすべての分野で、ペースセッターは他の企業よりも優れた成果を獲得

● ペースセッター ● メインストリーム



調査の質問: 貴社または貴組織では、デジタル トランスフォーメーションによる以下のメリットを得られましたか? 各項目を選択した回答者の割合。複数回答可。
メインストリームおよびペースセッターの定義については、47 ページを参照してください。

ペースセッターはテクノロジーと組織能力を統合

テクノロジーだけでは、ペースセッターが優れた成果を上げる理由を説明できません。ペースセッターもメインストリームの企業と同様のプレッシャーに直面していますが、それらを乗り越えるために、さらに備えを強化しています。デジタル製品およびサービスをメインストリームの企業より優先し（88% 対 60%）、社内データの正確性を確保し（93% 対 74%）、テクノロジーへの投資を引き続き拡大する傾向が強く見られます。

こうした投資は、相互に連携したデータや統合されたワークフローなどのより強固な組織能力と、テクノロジーの進化に適応するための備えの強化によって支えられています。テクノロジーだけでなく、こうした要素を組み合わせているからこそ、ペースセッターは生産性、イノベーション、顧客満足度、収益性、レジリエンス、ビジネス上の意思決定の質において、メインストリームの企業のグループを一貫して上回っていると考えられます。

60%

メインストリームの
企業の場合

88%

ペースセッターが
デジタル製品
およびサービスを
優先する割合

AI 活用においては 必要性和実装上の 課題が交錯



AI の実践的な活用が競争優位性になりつつある

人工知能は、デザインと創造の業界全体における最大のテクノロジー課題となっています。AI を含むテクノロジーの進歩が、企業の最大の懸念事項として初めてコスト管理を上回り、その割合は 2025 年の 31% から 40% へと上昇しています。この変化が示しているのは、AI への関心の高まりだけではありません。企業が AI の試験的な利用から日常業務への組み込みへと移行する中で、経営層の優先事項が変化していることを示しています。

各企業もそれに応じた対応を進めています。3/4 の企業が、今後 3 年間で AI への投資を増やす予定です。すでに 40% が AI を設計ワークフローに統合し、34% が AI 主導の自動化を実装しています。問われているのは、もはや企業が AI を導入するかどうかではなく、AI をどれだけ効果的に活用できるかです。

オートデスクのプラットフォーム サービスおよび新興テクノロジー担当エグゼクティブ バイス プレジデント兼 CTO のラジ・アラスは、次のように述べています。「AI は、プロジェクトで何が変更されたのかを示すことはできます。しかし、より難しいのは、なぜ、いつその決定が下されたのか、そしてその決定がその後の工程にどのような影響を与えるのかを把握することです。そのコンテキストは、プロンプトや単一のシステムから得られるものではありません。プロジェクトのデータ、人、意思決定が互いにどのように関連しているかを理解することで得られるのです」。

**75%**

テクノロジー支出全体が横ばいになる中でも、AI への投資を増やす予定だと回答したビジネス リーダーの割合

**6 / 10**

企業が、AI 目標の達成に向けた初期段階または中間段階にある、もしくはまだ着手していないと回答した割合

**94% 対 61%**

ペースセッターとメインストリームの企業が、AI の実装を推進する専任チームを設けている割合

「AI はすでに現実のものとなっており、今後さらに進化していきます。今、試行錯誤を積極的に取り入れる企業こそが、競争優位性を維持できるのです」

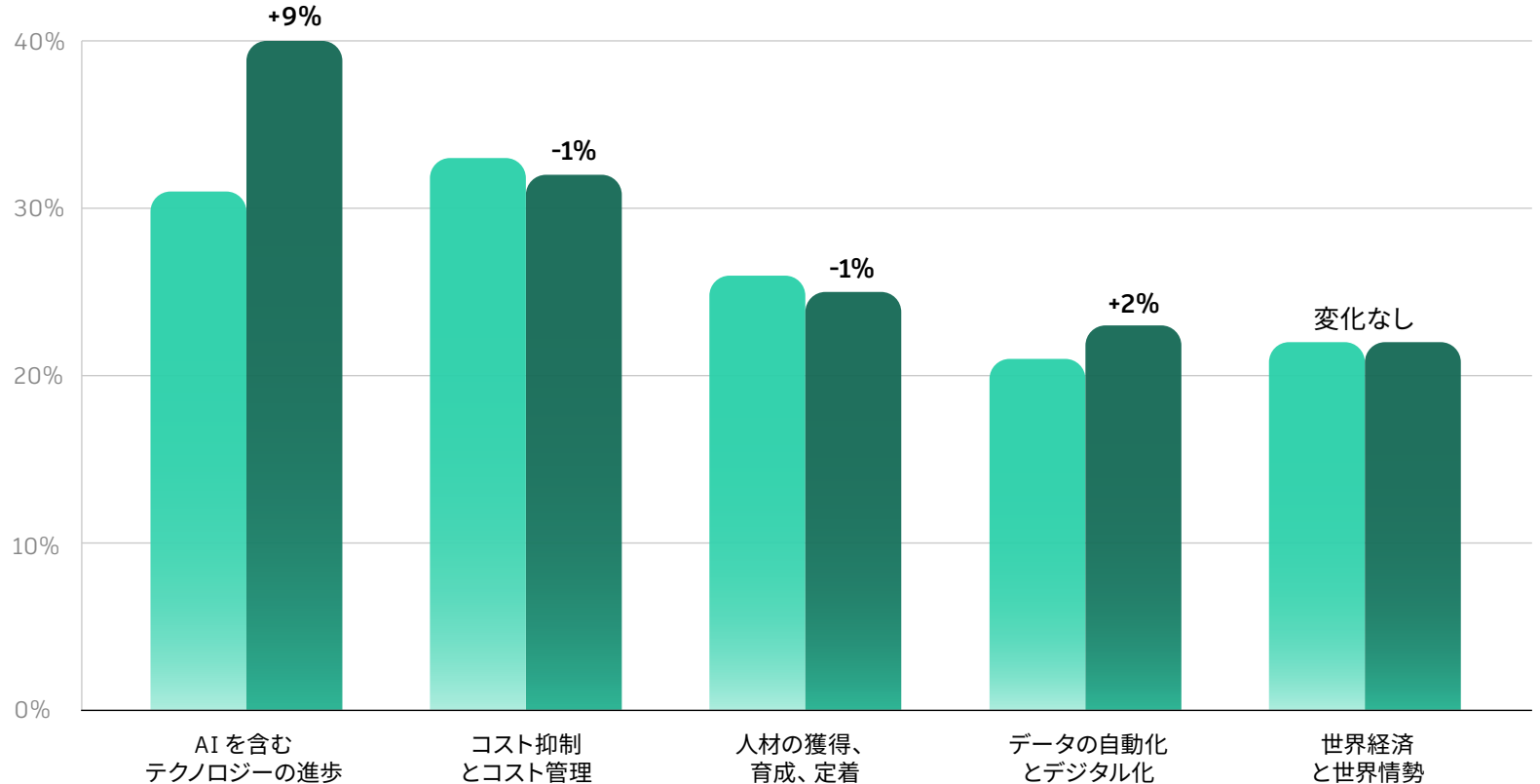
ジェフ・キンダー

製品開発および製造ソリューション担当エグゼクティブ バイス プレジデント (EVP)、オートデスク

AI が今や デザインと創造の業界全体における最大の課題

テクノロジーが初めてコストを上回り、企業にとって最大の障壁に

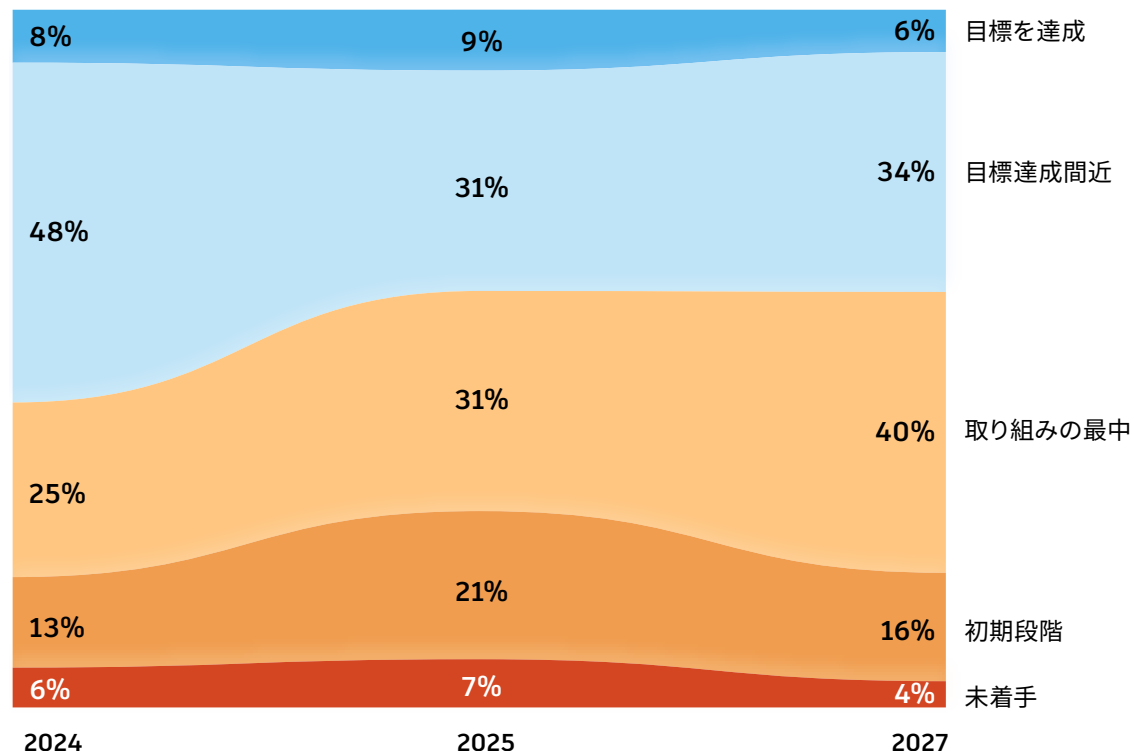
● 2025 ● 2027



調査の質問: 貴社または貴組織が現在直面している上位 3 つの課題は何ですか? 最大 3 つまで選択してください。数字は各項目を選択した回答者の割合です。

企業は AI の道のりにおいて どの段階にいるのかを確認中

AI テクノロジーの急速な進化により、
デザインと創造の業界全体で目標が変化



調査の質問: 貴社または貴組織における現在の人工知能 (AI) の目標達成状況を教えてください。5 段階評価。数字は各項目を選択した回答者の割合です。四捨五入のため、数値の合計が 100% にならない場合があります。

投資だけで成果が保証されるわけではありません。デザインと創造の業界の企業のうち、40% だけが AI 目標の達成に近づいている、または目標を達成したと回答しており、大半は AI への道のりの初期段階にとどまっています。AI の能力が進化を続ける中、企業は AI 実装の成功のあり方も見直しています。

AI を実際に活用するには、新しいツールを導入するだけでは不十分です。企業は、AI を信頼できるデータに接続し、日常のワークフローに組み込むとともに、その効果的な活用に必要なスキルを従業員に身につけさせる必要があります。課題の焦点は、実験から実践へと移っています。

「私たちは AI を、もう 1 つの頭脳と捉えています。インドの建設市場には多くの変動要因があり、AI を活用すれば、それらの情報をより迅速かつ的確に、そして大規模に結び付けていくことができます」

SAGAR S. GANDHI 氏

Shapoorji Pallonji Engineering & Construction (インドのムンバイを拠点とするエンジニアリングおよび建設会社) 戦略およびビジネス エクセレンス 責任者



ソリューション スポットライト

日常のエンジニアリング 業務にAI を組み込む MAIRE

グローバル エンジニアリング企業の MAIRE は、AI を独立した機能ではなく、日常的なエンジニアリング業務の一部にすることを目指しました。AI を信頼できるプロジェクト データに接続し、エンジニアリング ワークフローに直接組み込むことで、手戻りを削減し、情報へのアクセスを迅速化するとともに、非常に複雑なプロジェクト全体での意思決定を改善しました。

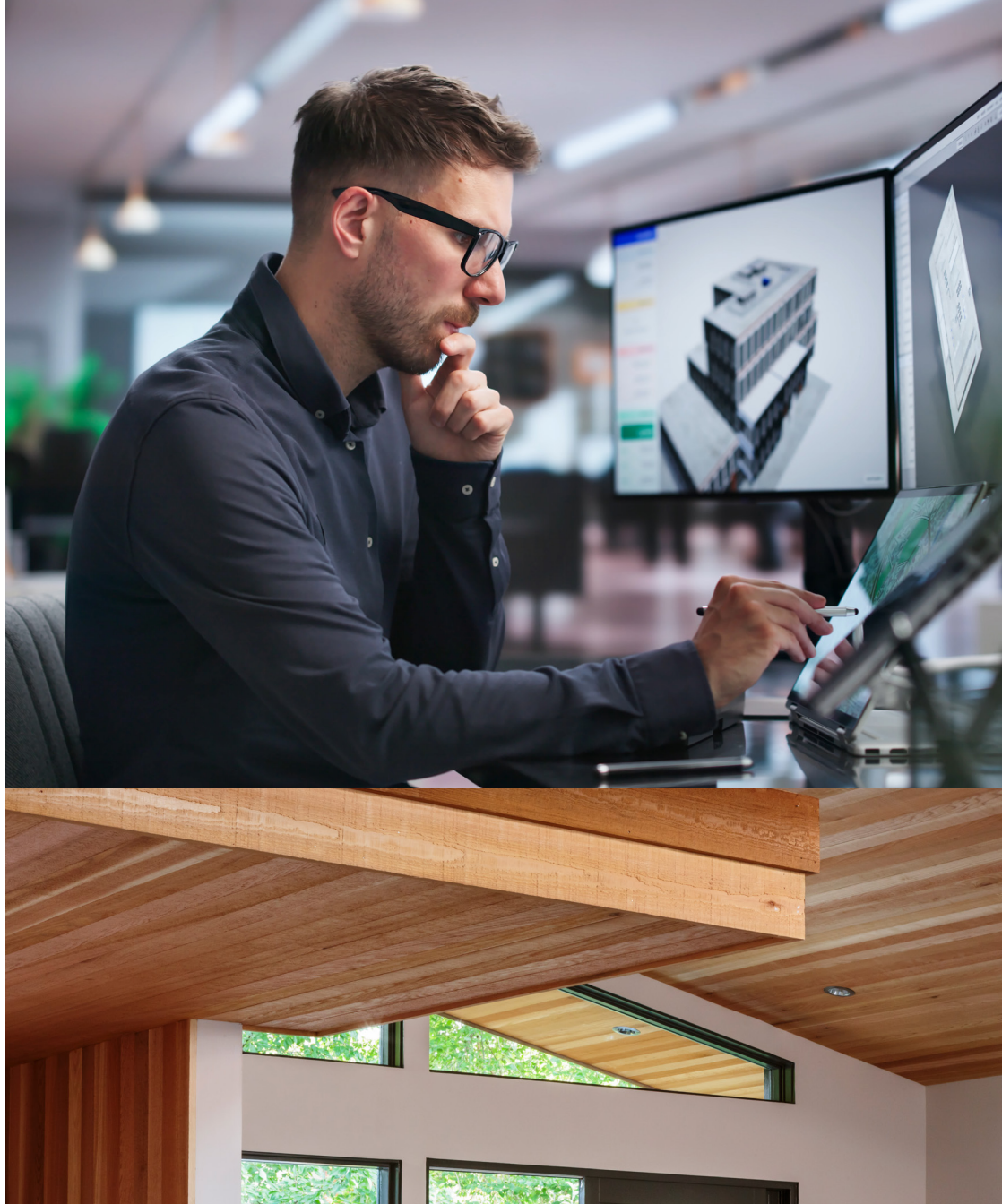
現在、200 人を超えるエンジニアが、100 を超える AI 搭載ソリューションの全社導入に向けた開発を進めています。MAIRE の経験は、AI が信頼できるデータに接続され、実際に業務が行われるプロセスに統合されたときに、最大の価値を生み出すことを示しています。

➔ 事例の全文を読む（英文）

AI への信頼が高まっている

企業が AI 実践の実績を重ねていくにつれて、不確実性に代わって楽観的な見方が広がっています。73% が AI は業界の発展に貢献すると考え、71% が AI によって業界の創造性が高まると考え、70% が AI によって反復作業が減少すると考えています。一方、AI が自らの業界を不安定にすると考えるリーダーの割合は、2025 年の 48% から 41% へと低下しています。

企業が AI への確信を深めているのは、AI の変化が緩やかになっているからではなく、AI を責任ある形で効果的に活用する方法への理解が深まっているからです。



「LLM [大規模言語モデル] を高度な検索エンジンとして活用し、先行事例となるプロジェクトを見つけ、同様の業務に取り組む実務者となつたり、手作業では収集が難しい大規模なデータセットを構築しています」

NATHAN SU 氏

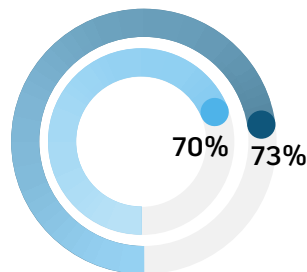
Inferstudio (米国カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする建築およびコンピューティショナルデザイン スタジオ) 共同創業者

AI に対する肯定的な見方が広がり、業界の不安定化に対する懸念は低下

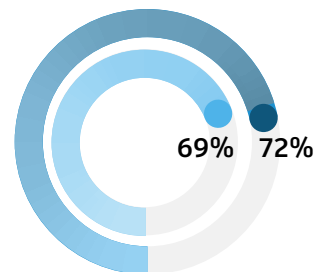
AIが身近になるにつれて、懸念が期待へと変わっています

● 2025 ● 2027

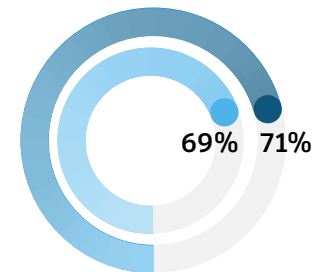
AI は業界の
発展に貢献する



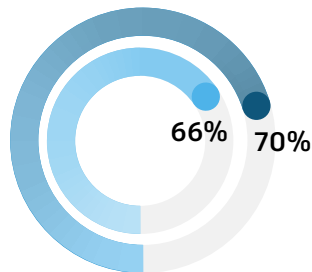
自社は AI に関して
適切な意思決定を
行うと確信



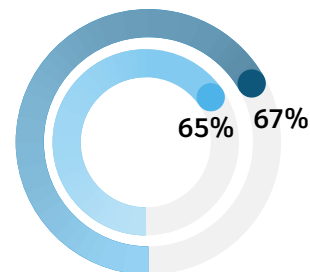
AI によって業界の
創造性が高まる



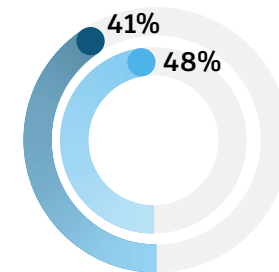
AI によって単調な
作業や反復作業が
減少する



業界で利用される AI テク
ノロジーを信頼している



AI は業界を
不安定化させる



調査の質問: ご自身の業界や自社における人工知能 (AI) について考えたとき、以下の記述にどの程度同意しますか、あるいは同意しませんか? 上位 2 項目 = 「やや同意する」または「強く同意する」。



AI の活用力が 人材の中核的な能力に

AI が日常業務の一部になるにつれて、企業は専門的な技術知識よりも、幅広い AI 活用力を重視するようになっていきます。AI スキルを優先する企業では、AI 全般の知識が最優先 (37%) となっており、AI ツールを使用した実践経験 (22%)、AI リテラシー (13%)、AI の統合と実装 (11%) と続きます。

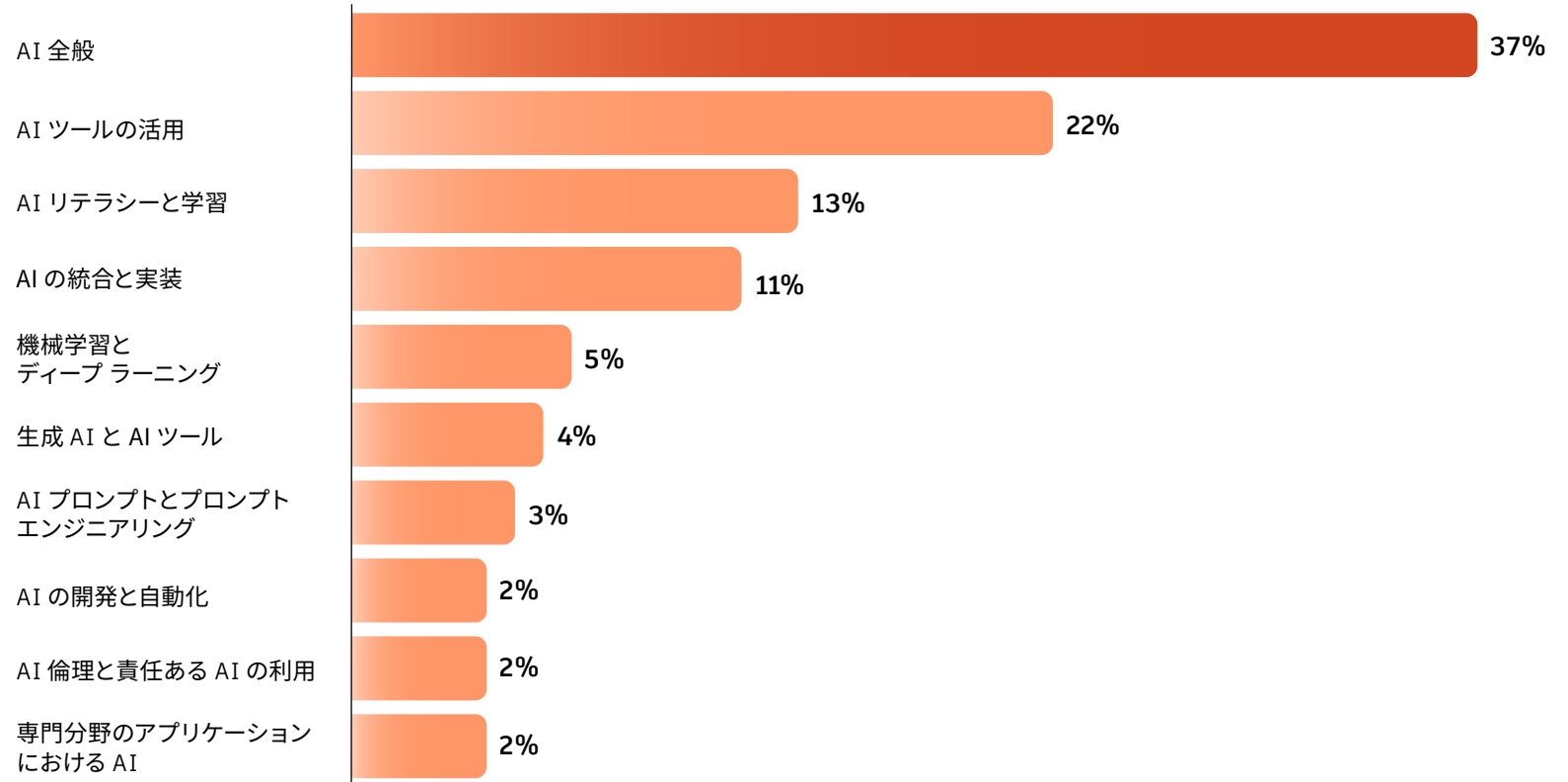
こうした優先事項から、企業は AI を少数の専門家だけが担うものではなく、ビジネスの基盤となる能力にすることをさらに期待していると考えられます。AI がより多くのワークフローに組み込まれるにつれて、競争優位性は、より多くの従業員が自信を持って責

任ある形で AI を活用できるように左右されるようになります。

Autodesk Education Experiences 担当バイス プレジデント (VP) のメアリー・ホープ・マキンストンは、次のように説明しています。「AI が最大の力を発揮するのは、より人間らしさを追求したときです。AI は反復作業を自動化できますが、好奇心、判断力、創造性、共感力、コラボレーションは、依然として人間ならではの強みです。未来とは、人間が機械のようになることなく、人間にしかできないことに取り組むための時間と余裕を生み出していくことです」。

AI スキルでは、一般的なりテラシーがより重視される傾向

AI を従業員にとって不可欠なスキルとして挙げた回答者の回答



次の質問に「AI のスキルと活用」(31%、n=3,073)と回答した人のサブセット: 今後3年間で、貴社の従業員にとって最も重要となる技術スキルまたはデジタルスキルを2つ挙げるとしたら、何ですか?
AI 全般 = 「高度な AI スキル」、「AI テクノロジー」。割合は、回答者数ではなく回答総数に占める比率を示しています。この質問は自由回答形式であったため、回答者が複数の回答を記入している場合があります。

ペースセッターは AI を実務に組み込む方法が異なる

ペースセッターとメインストリームの企業グループの違いは、単にペースセッターの方が AI に多く投資しているという点ではありません。ペースセッターは、AI を実際に活用するために必要な組織能力を構築しています。

メインストリームの企業グループと比べ、ペースセッターは AI を設計ワークフローに統合する割合 (57% 対 38%)、AI 主導の自動化を実装する割合 (48% 対 32%)、AI のトレーニングと能力開発に投資する割合 (52% 対 39%) が高い傾向にあります。また、データ管理と分析 (+23 ポイント)、人材の獲得、育成、定着 (+31 ポイント)、新しい製品およびサービス (+20 ポイント) など、AI の有効性を支える基盤にも、より多く投資しています。

こうした投資は、より強固な組織能力によって支えられています。ペースセッターは、AI の統合を担当する専任チーム (94% 対 61%)、信頼できるデータ パートナー (92% 対 65%)、組織全体の情報を統合する連携システム (91% 対 60%) を備えている割合が大幅に高くなっています。

オートデスクのリサーチ担当シニア バイス プレジデント (SVP) のマイク・ヘイリーは、次のように述べています。「AI は、シグナルとノイズを切り分けることに非常に優れています。膨大な情報を精査できるため、人々は最も重要なことに集中できるようになります」。AI に信頼できるデータ、明確なコンテキスト、連携したワークフローを提供する企業は、投資を測定可能なビジネス価値へと転換するうえで、優位に立つことができます。

**61%**

メインストリームの
企業の場合

94%

AI の統合を担当する
専任チームを設置している
ペースセッターの割合

サステナビリティは 理想から 競争優位性へ



サステナビリティは価値を生み出すが、実行は依然として困難

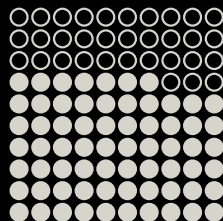
サステナビリティは、デザインと創造の業界全体で新たな段階に進んでいます。かつて主にコンプライアンス要件や企業責任に関する取り組みと見なされていたものが、競争優位性と長期的なビジネス価値の基盤として認識されるようになっていきます。

現在、67% の企業が、サステナビリティは競争優位性を生み出すと回答しています。また、71% がサステナビリティへの取り組みによって、長期的に年間収益の 5% を超える価値を創出できると考えています。議論の焦点は、なぜサステナビリティが重要なのか、という点から、企業がサステナビリティからどのように価値を生み出すかへと移っています。

CIMA+ のデジタル デリバリー担当ナショナル ディレクター、Julien Jean-Charland 氏は、次のように述べています。「私たちは、単に最も効率的な建物を建てるのではなく、人々にとって最も快適な建物を建てています。

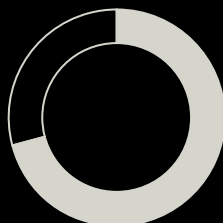
それこそが、私たちの差別化要因です」。イタリアのトリノにある Leva Engineering の共同創業者兼最高技術責任者 (CTO)、Gabriele Gambotto 氏も同様の点を指摘し、次のように述べています。「もちろん、サステナビリティは私たちの価値観の一部であるため、持続可能なものにしたと考えていますが、完全電動化には非常に大きなメリットもあります」。サステナビリティは、単なる環境へのコミットメントではなく、複数のメリットをもたらすビジネス戦略として認識されるようになっています。

しかし、実行は依然として困難であり、41% の企業がサステナビリティ目標の達成で後れを取っていると回答しています。ただし、サステナビリティのビジネス上の効果に対する確信は高まり続けています。現在の課題は、もはやサステナビリティとビジネス価値の間ではなく、意欲と実行の間にあります。



67%

のビジネス リーダーが、サステナビリティは義務から競争優位性へと変化したと回答しています



71%

のビジネス リーダーが、サステナビリティへの取り組みによって年間収益の 5% を超える価値を生み出せると回答しています

92% 対 64%

サステナビリティによって競争力が強化されると回答した割合は、ペースセッターの方がメインストリームの企業グループよりも大幅に高くなっています



「エネルギー効率と電化について語ることは、経済的レジリエンスについて語ることであります」

ISABELLE SPIEGEL 氏
VINCI (フランスのナンテールを拠点とするグローバル建設会社) 環境担当バイス プレジデント

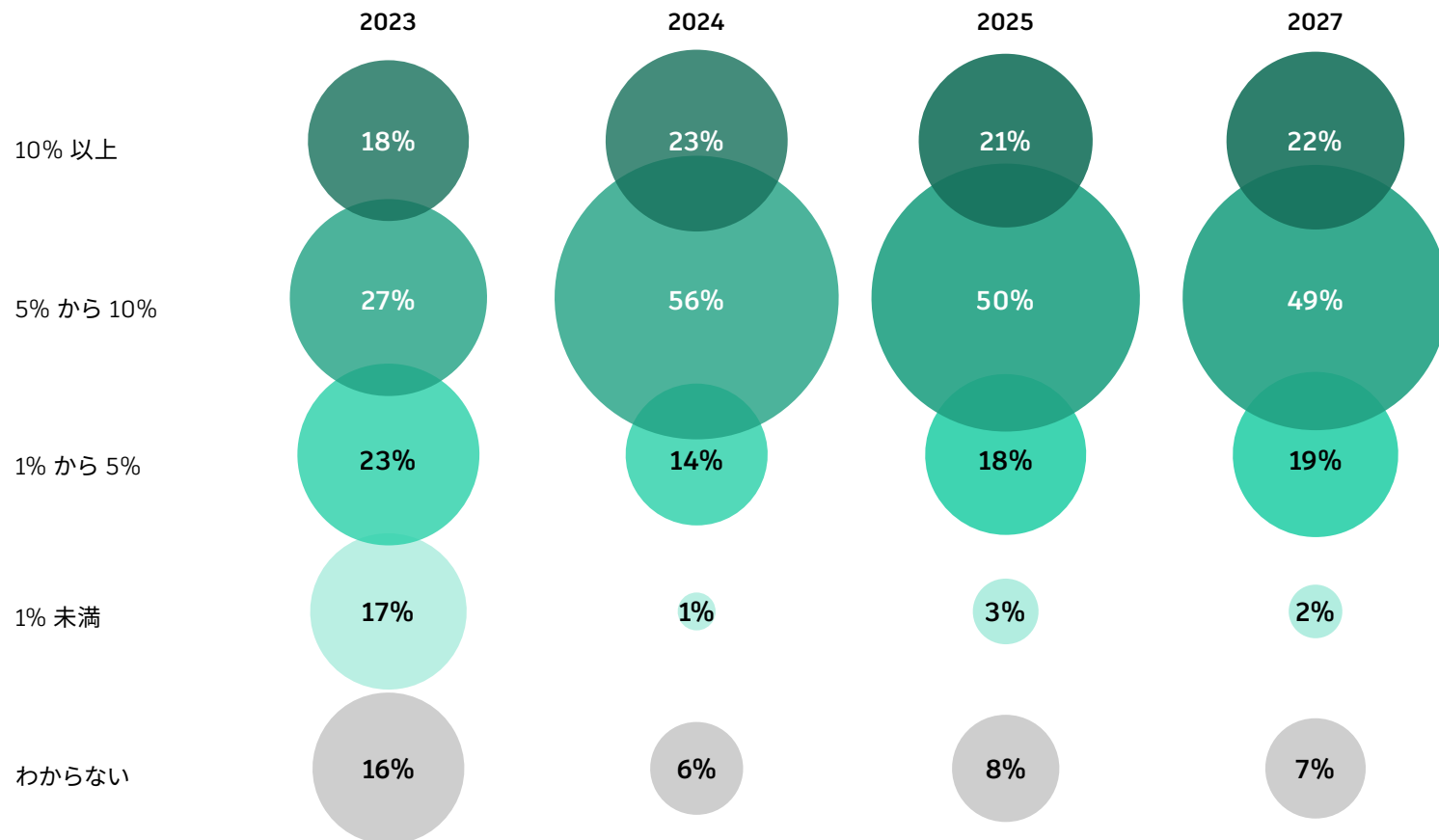


企業は、サステナビリティが財務実績に直接貢献することをますます期待しています。3/4 近くの企業が、サステナビリティへの取り組みによって年間収益の 5% を超える価値を生み出せると考えており、サステナビリティは単なる事業コストではなく、ビジネス価値の源泉になりつつあるという見方を裏付けています。

ペースセッターは、さらに強い確信を持っています。その 92% がサステナビリティは競争力を強化すると回答し、94% が長期的なビジネス上の優位性と捉え、89% がサステナビリティへの取り組みによって年間収益の 5% を超える価値を生み出せると考えています。

問われているのは、もはやサステナビリティが価値を生み出すかどうかではありません。企業の関心は、より適切な意思決定、より強固な業務運営、連携したデジタル能力を通じて、その価値をどのように引き出すかに移っています。

サステナビリティにより年間収益の 5% 以上に相当する価値を創出できると 4 社中ほぼ 3 社が引き続き回答



調査の質問: おわかりになる範囲で、サステナビリティ施策は長期的に、貴社にどの程度のビジネス価値（年間収益に占める割合）をもたらすことができますか？
5段階評価。四捨五入のため、数値の合計が 100% にならない場合があります。



ソリューション スポットライト

Athenian Brewery は 相互に連携したデータで サステナビリティの 取り組みを測定可能に

ギリシャ最大の醸造会社であり、Heineken の製造元でもある Athenian Brewery は、業務パフォーマンスを向上させながら排出量を削減することを目指しました。エネルギー使用量と生産業務をデジタルで可視化することによって、設備のパフォーマンス、メンテナンスの必要性、資源消費をより明確に把握できるようになりました。

その成果は、サステナビリティと業務パフォーマンスの相乗効果が可能であることを示しています。メン

ナンス コストは最大 11% 減少し、製品の切り替え時間、エネルギー使用量、水使用量、CO2 排出量はいずれも 13% 減少しました。この事例は、相互に連携したデータにより、サステナビリティ目標を測定可能なビジネス成果へ結び付けられることを示しています。

➔ 事例の全文を読む（英文）

53%

サステナビリティへの
取り組みの推進に
AI を活用している
ペースセッターの割合

36%

メインストリームの
企業の場合

ペースセッターはサステナビリティを 業務上の優位性に変える

ペースセッターのサステナビリティへの取り組みは、AI への取り組みと同様に、単に多額の投資を行うことにとどまりません。その取り組みを日々の事業上の意思決定に組み込むため、組織としての実行力を高めています。

メインストリームの企業グループと比べ、サステナビリティを競争優位性と捉えている割合 (92% 対 64%)、サステナビリティへの取り組みによって年間収益の 5% を超える価値を生み出せると考えている割合 (89% 対 70%)、サステナビリティ目標の達成に向けて社内に強い意欲があると回答する割合 (94% 対 68%) が高くなっています。

テクノロジーは、ペースセッターがこうしたコミットメントを実行に移すための方法の 1 つです。メインストリームの企業グループと比べ、エネルギー効率を向上させる割合 (42% 対 35%)、再生可能エネルギーの利用を増やす割

合 (38% 対 29%)、サーキュラーデザインの手法を採用する割合 (38% 対 29%)、サステナビリティへの取り組みを推進するために AI を活用する割合 (53% 対 36%) が高くなっています。

オートデスクの最高サステナビリティ責任者、ジョー・スパイカーは、次のように述べています。

「AI は、トレードオフを明らかにするうえで特に大きな力を発揮します。AI を活用することで、企業はコスト、炭素排出量、パフォーマンス、リスクを総合的に評価し、最も大きな成果につながる早い段階で、より適切な意思決定を行うことができます」。

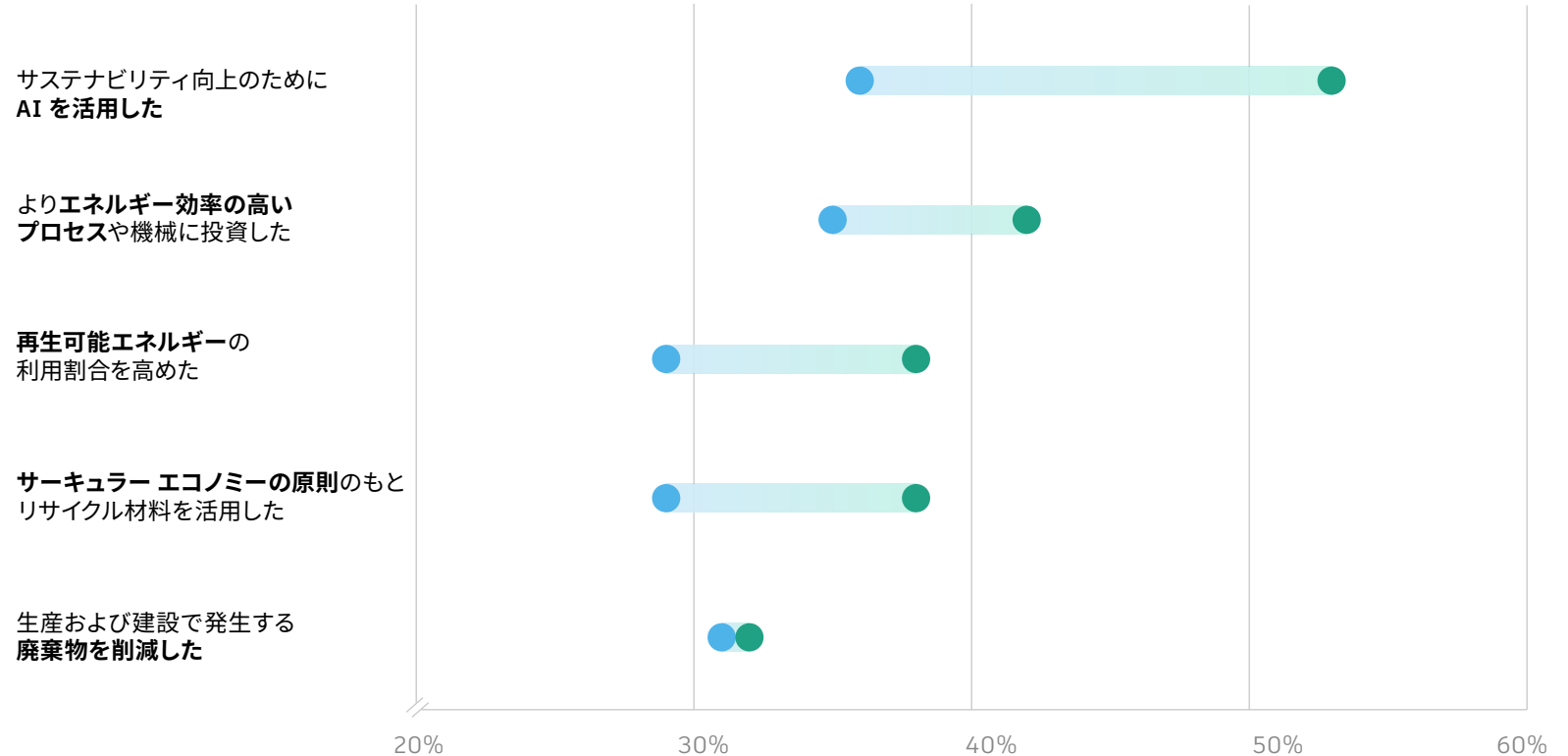
これらの調査結果は、デジタルトランスフォーメーション、AI、サステナビリティを個別の取り組みとして進めるのではなく、相互に強化することで企業がより大きな価値を創出しているという、本レポート全体を通じて見られる広範な傾向を裏付けています。

「アフォーダブル住宅の市場で競争力を確保するには、資源の無駄をなくす必要があります。当社の工業化建設の手法は、従来の工法と比べて廃棄物を 85% 削減します」

RAFAEL PASSOS
VALADARES 氏
Grupo Direcional エンジニアリング ディレクター | ブラジル

サステナビリティ ソリューションへの AI の統合において、ペースセッターがメインストリームの企業を大きくリード

● ペースセッター ● メインストリーム



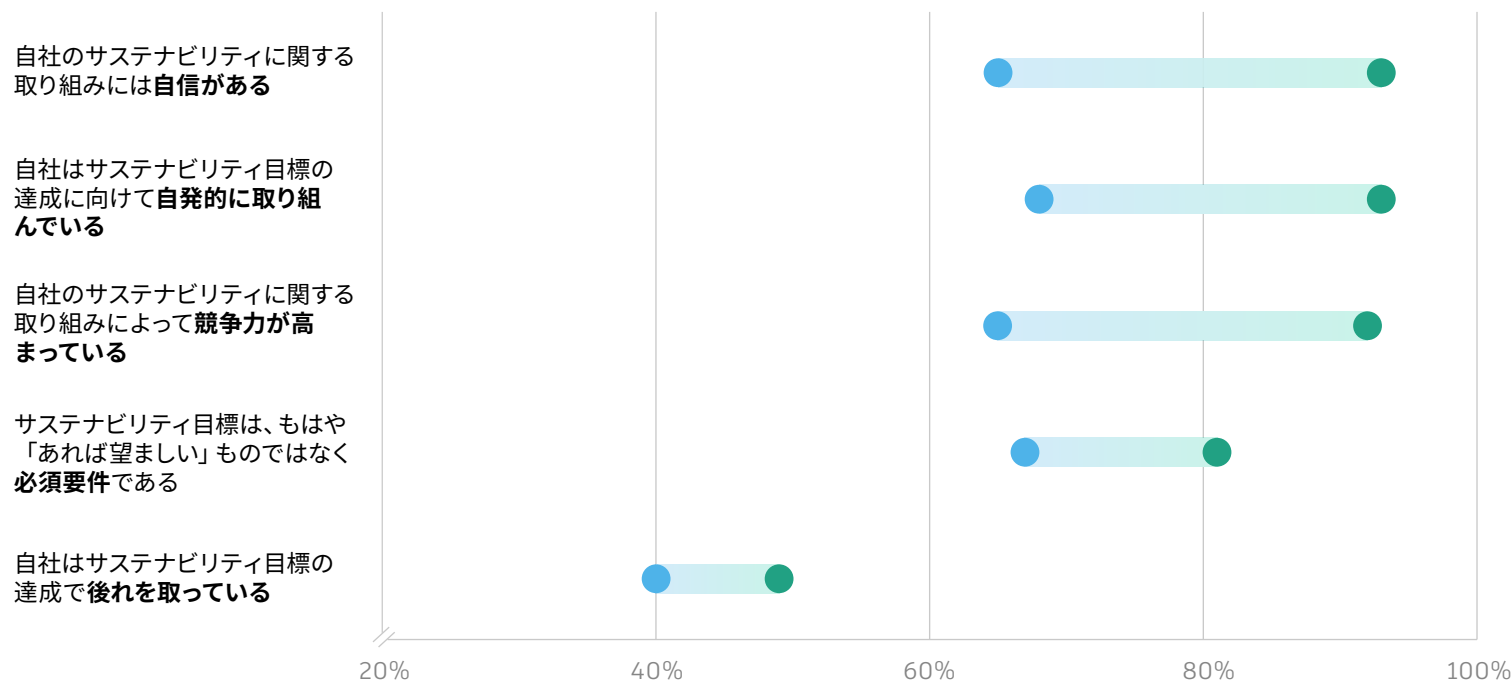
調査の質問: サステナビリティを向上させるために、貴社または貴組織では既にどのような変革を行いましたか? 各項目を選択した回答者の割合。複数回答可。

注: 読みやすくするため、一部の回答選択肢を短縮しています。回答選択肢「その他」は表示していません。メインストリームおよびペースセッターの定義については、47 ページを参照してください。

ペースセッターはサステナビリティを重視する一方、その基準の高さゆえに目標未達も多い

ペースセッターは、サステナビリティからより大きなメリットを得ている一方で、目標未達も多く経験しています

● ペースセッター ● メインストリーム

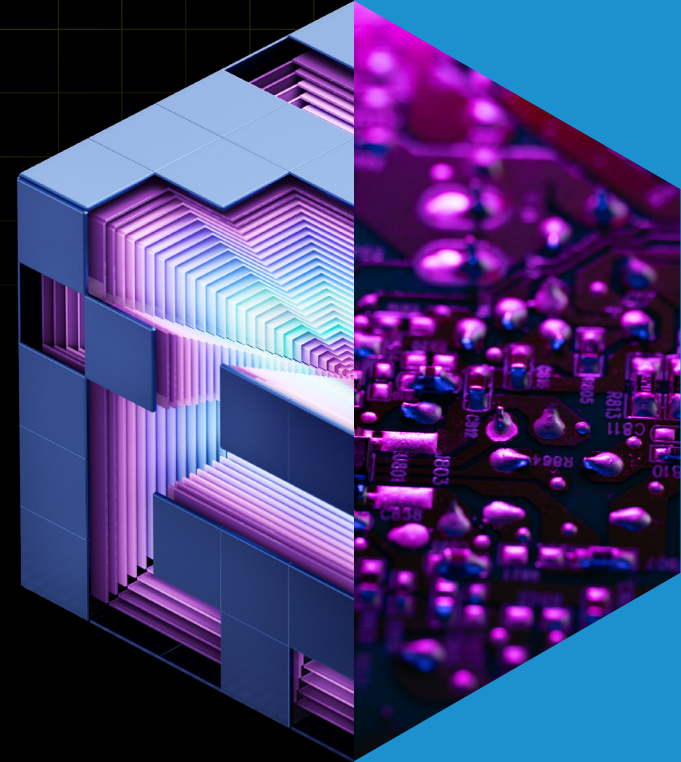


調査の質問: 貴社または貴組織に関する以下の記述について、どの程度同意しますか、あるいは同意しませんか? 5段階評価。上位2項目 = 「やや同意する」および「強く同意する」。
メインストリームおよびペースセッターの定義については、47ページを参照してください。

最も高い成果を上げている企業において、共通して際立つ調査結果があります。ペースセッターは、サステナビリティにおいてより優れた成果を報告しているにもかかわらず、サステナビリティ目標の達成で後れを取っていると回答した割合が、メインストリームの企業グループよりも高くなっています。

この一見矛盾した結果は、本レポート全体を通じて見られる、高い成果を上げている企業に共通する、より広範な特徴を反映しています。企業は成熟するにつれ、成功を宣言するよりも先に、期待水準を引き上げる傾向があります。サステナビリティでは、個々の取り組みを完了することよりも、ビジネス全体の意思決定方法を継続的に改善することが重視されるようになります。

コンバージェンスが 企業のレジリエンス を向上



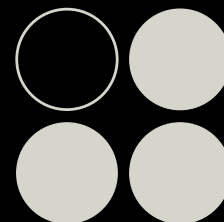
コンバージェンスは、企業が変化に適応するために必要な各種能力をつなげる

企業は、単一の専門分野、ワークフロー、業界の枠を越えた問題を解決することが増えています。製品の連携が強まり、プロジェクトが複雑化するにつれて、競争優位性は、個々のステップを個別に最適化するだけではなく、適切なデータ、テクノロジー、専門知識、ワークフローをつなげることから生まれる傾向が強まっています。

本レポートにおけるコンバージェンスとは、設計・創造・運用のライフサイクル全体および業界横断で、データ、ワークフロー、チーム、テクノロジー、専門知識をつないでいく能力を指します。こうしたつながりを構築する企業は、より適切に意思決定を行い、さらに早い段階からコラボレーションし、顧客ニーズやテクノロジーの進化に迅速に対応します。

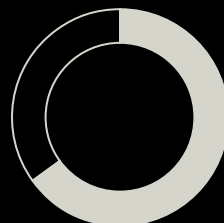
オートデスクのチーフ オブ スタッフ兼インキュベーション担当バイス プレジデント (VP) のロブ・ディケンズは、次のように説明しています。「コンバージェンスは、業界横断、ライフサイクル横断、デジタル世界と物理世界の間という 3 つの形で進んでいます。建設業は製造業のように体系化していく必要がある一方で、製造業は建設業のように柔軟性を高めていく必要があります」。

コンバージェンスは、デジタル トランスフォーメーション、AI、サステナビリティに取って代わるものではありません。これらを結び付け、より強固な事業運営モデルを構築します。



3/4 の企業

自社の業界の外にイノベーションを求める割合*



68%

他業界のデジタル手法やツールを導入する企業の割合*



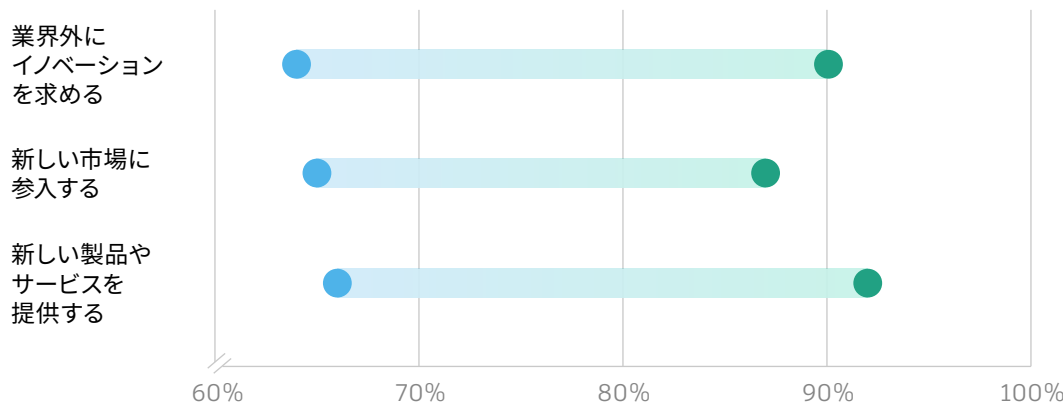
92% 対 66%

ペースセッターが新しい製品やサービスを導入している割合は、メインストリームの企業グループを上回っています

*出典: オートデスク『2026 年度版 AI 動向』調査

自らの業界の外に目を向ける 企業が増えている

● ペースセッター ● メインストリーム



調査の質問: レジリエンスを高めるために、貴社または貴組織が以下の取り組みを行っていることについて、どの程度同意しますか、あるいは同意しませんか? 各項目を選択した回答者の割合。複数回答可。メインストリームおよびペースセッターの定義については、47 ページを参照してください。

コンバージェンスは好奇心から始まります。現在、企業の 75% が自社の属する業界の枠を越えてイノベーションのヒントを求めており、68% が他の業界のデジタル手法やツールを導入していると回答しています。

メインストリームの企業グループと比較して、ペースセッターは新市場への参入率 (87% 対 65%) と、新しい製品やサービスの導入率 (92% 対 66%) が大幅に上回っています。

この調査結果から、従来の領域外から積極的に学ぶ企業は、自

らの領域内でもイノベーションを起こしやすい傾向にあることが分かります。

「住宅建設は、自動車産業と同様に、高度にロボット化された工場で行われるようになり (モジュール建築)、建設現場は組み立ての場へと変わっていくと確信しています」と、ブラジルのペロオリゾンテに拠点を置く住宅建設会社 Grupo Direcional のエンジニアリング ディレクター Rafael Passos Valadares 氏は述べています。

「ペースセッターは、本質的に好奇心が旺盛です。成長するには他者の声に耳を傾けなければならないと理解する謙虚さを備え、他業界で成果を上げている取り組みを自らの業界に取り入れることにも前向きです」

ロブ・ディケンズ

チーフ オブ スタッフ兼インキュベーション担当バイス プレジデント (VP)、オートデスク



「建設業界では現在、航空宇宙産業や製造業のテクノロジーが採用されており、それらの実装によるプラスの効果が現れています」

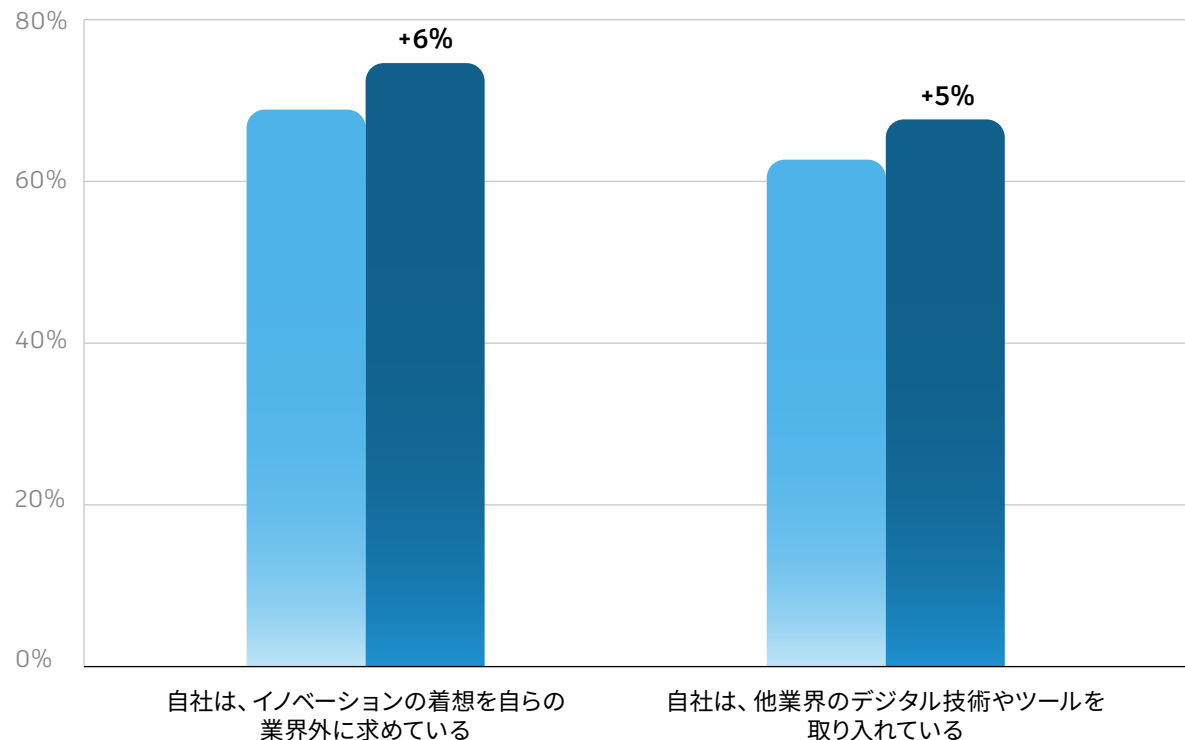
ALEX TURNER 氏

Oktra (英国ロンドンを拠点とするワークプレイスの設計・内装施工会社) デジタル コンストラクション ディレクター

業界横断的なコンバージェンスが進んでいる

デザインと創造の業界全体で、リーダーは自らの業界外にソリューションを求めています

● 2025 ● 2026



調査の質問: 以下の記述について、どの程度同意しますか、あるいは同意しませんか? 5段階評価。上位2項目 = 「やや同意する」および「強く同意する」。出典: オートデスク『2025 年度版デザインと創造の業界動向調査: デジタル トランスフォーメーション動向』および『2026 年度版デザインと創造の業界動向調査: AI 動向』。

連携したワークフローによって、 アイデアが業界の枠を越えて広がる

他からアイデアを取り入れることは、始まりにすぎません。コンバージェンスは、企業が情報、ワークフロー、専門知識をつなぎ、チーム、プロジェクト、業界の間で知識をより円滑に共有できるようにすることで、価値を生み出します。

AI や相互接続されたデータ、クラウド プラットフォームの進歩により、こうした連携が容易になっています。企業は、ある領域で開発され、実証されたアプローチをまったく異なる課題に応用できるようになり、障壁を減らしながらイノベーションを加速させています。

米国テキサス州ダラスを拠点とする建築設計会社 HKS の最高技術責任者、Natasha Luthra 氏は、次のように説明しています。「現在、私たちが最も力を入れているのは、データ インフラ全体の構築です。堅牢なデータ インフラがなけ

れば、こうした取り組みは何一つ実現できません。そのため、今年ではまず、データ インフラに最も重点的に投資しています」。

この経験は、デザインと創造の業界全体で進む、より広範な変化を示しています。AI や自動化、新たなデジタル能力は、チームやワークフローを横断して流れる、信頼性の高い連携したデータを基盤とすることで最大の価値を発揮することが、企業間で認識されつつあります。

その一例が、グラフィック ビジュアライゼーション テクノロジーです。メディア & エンターテインメント以外の企業の 64% が現在、グラフィック ビジュアライゼーション ツールを使用していると回答しており、ある業界向けに開発されたテクノロジーが、他の多くの業界でも価値を生み出すようになって

いることを示しています。デジタル ツイン、工業化建設、XR、空間知能でも、同様の傾向が見られます。

オートデスク製品の導入状況も、この広範な傾向を示しています。2024 年から 2025 年にかけて、AEC 分野の顧客による製造ソリューション Vault Professional と Inventor Professional の利用は、それぞれ 29% と 28% 増加しました。一方、製造業の顧客による Forma Build の導入は 88% 増加し、メディア & エンターテインメントの顧客による AEC Collection の利用は 14% 増加しました。これらの傾向を総合すると、実際のビジネス課題の解決に役立つ場合、企業は従来の専門分野以外で生まれたツールやワークフローを、より積極的に採用するようになっていることが分かります。

画像提供: Haas



「建設業界は、デジタル プロジェクト管理の導入において、エンジニアリング業界よりも数年先を進んでいます。そのため、私たちは常に建設業界のベスト プラクティスから学んでいます」

YOUNGGEUN KIM 氏

Kunhwa Engineering & Construction (韓国城南市に拠点を置くエンジニアリング会社) R&D センター長

グラフィック ビジュアライゼーション ツールの活用が デザインと創造の業界全体に拡大

AEC および D&M の企業で、従来は M&E 向けとされていたツールが日常的に活用されています

グラフィック
ビジュアライゼーション
プログラム

64%

デジタル ファクトリー

38%

工業化建設/製造・組立
容易性設計 (DfMA)

38%

デジタル ツインおよび IoT

32%

空間知能

31%

XR

31%

調査の質問: 前の質問で、貴社は他業界のデジタル技術やツールを取り入れていると回答しましたが、具体的にはどのような業界横断的な技術やツールですか? 該当するものをすべて選択してください。数字は各項目を選択した回答者の割合です。出典: オートデスク『2026 年度版デザインと創造の業界動向調査: AI 動向』。

画像提供: Balloon
Tech Co.



ソリューション スポットライト

Reds10 は、設計、製造、建設をつなぐことにより建設の迅速化を実現

Reds10 は、分断されていたプロジェクトの引き継ぎを、設計、製造、建設にまたがる連携したワークフローへと移行しています。プロジェクト情報を共有するデジタル環境を構築し、AI を活用してルーチン タスクを自動化することで、プロジェクトのライフサイクル全体にわたる連携を改善しました。

その成果は大きく、学校施設の引き継ぎは 40% スピードアップし、工場での作業工数は 30% 削減さ

れ、設計期間は 12 週間から 6 週間へと半減しました。Reds10 の事例は、データ、ワークフロー、専門知識をつなぐことで、生産性を向上させながら、継続的なイノベーションの基盤を構築できることを示しています。

➔ [ビデオを見る（英語）](#)

ペースセッターは連携型の 事業運営モデルを構築する

ペースセッターは、自らの業界の枠を越えて目を向けるだけでなく、企業全体でアイデア、情報、専門知識が行き交うインフラを構築することで、他の企業との差別化を図っています。

メインストリームの企業グループと比較して、ペースセッターは API を介してシステムを接続し（91% 対 60%）、AI 統合の専任

チームを設置し（94% 対 61%）、社内データの責任者を定めている（93% 対 66%）割合が大幅に高くなっています。

つまり、テクノロジー、信頼できるデータ、ワークフロー、人材を連携の取れた事業運営モデルに統合している企業は、一貫して優れた成果を上げています。

91%

API を介して
システムを接続する
ペースセッターの割合

60%

メインストリームの
企業の場合



連携によって 企業の適応力が向上

ほとんどの企業で、レジリエンスは混乱に耐える能力として捉えられがちです。しかし、その能力は、混乱が生じる前に情報、能力、パートナーをどれだけ効果的につなげられるかに左右されます。

サプライチェーンの多様化は、こうした変化を示しています。68%の企業がサプライチェーンを多様化していると回答しており、2025年から3ポイント増加しています。一方、地政学的緊張によってサプライチェーンが脆弱になるとの懸念は、2025年をピークに低下しています。これらの調査結果から、企業は変化に柔軟に対応できる事業運営体制の構築に向け、これまで以上に先を見据えて取り組むようになっていくことが分かります。

ここから得られる示唆は、サプライチェーンにとどまりません。データ、ワークフロー、チーム、専門知識をつなぐ企業には、状況の変化に対応し、新たな機会を見だし、混乱が生じた際により迅速に適応できる体制を整えている傾向があります。

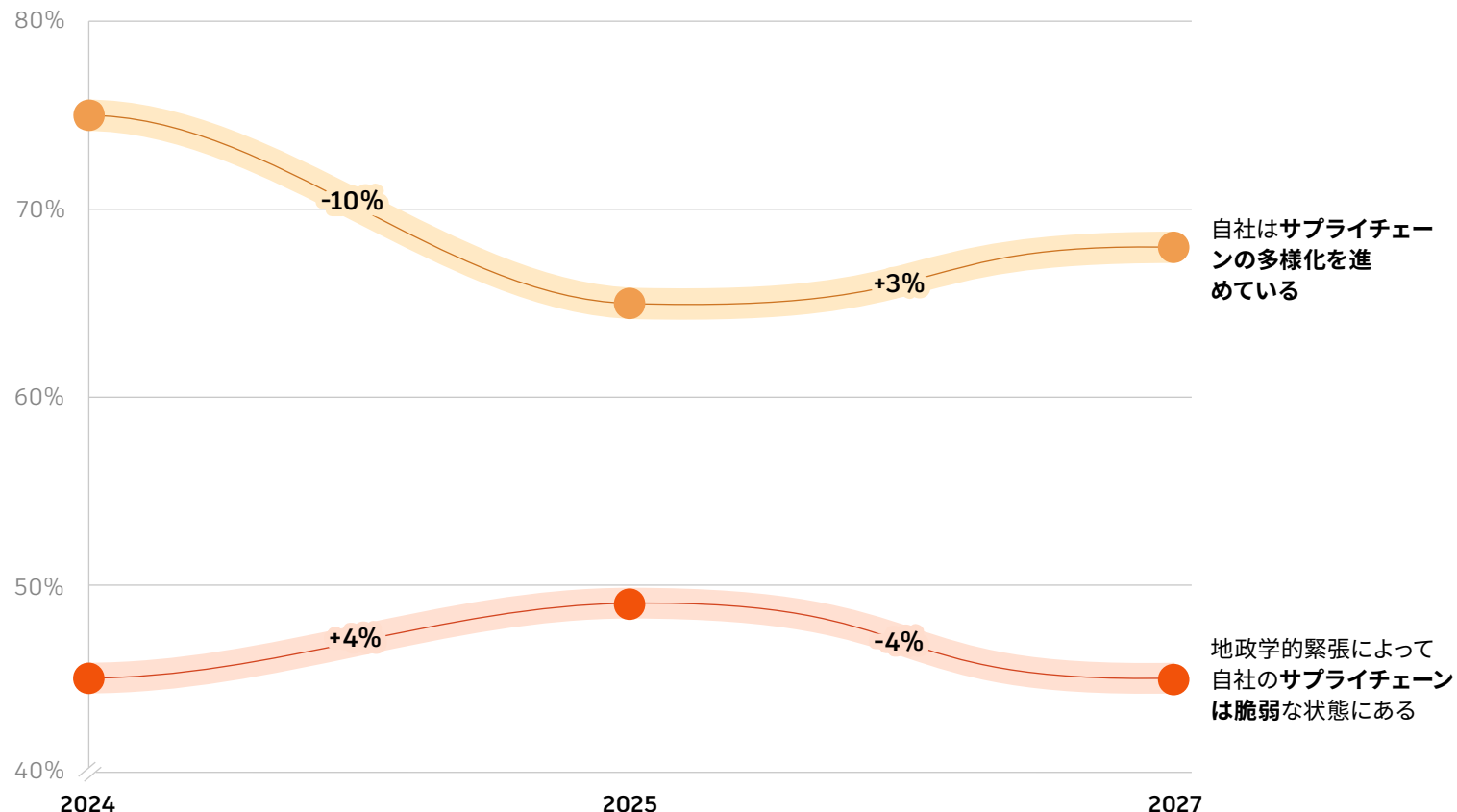


「データに基づくアプローチにより、信頼できる一元的な情報ソースが得られ、設計上のリスクをよりの確に評価し、プロジェクトを予定どおりに完了できるようになります」

SHEIK UDUMAN 氏
RSP Architects Planners & Engineers (シンガポールを拠点とする建築・エンジニアリング会社) BIM & デジタル テクノロジー部門 責任者

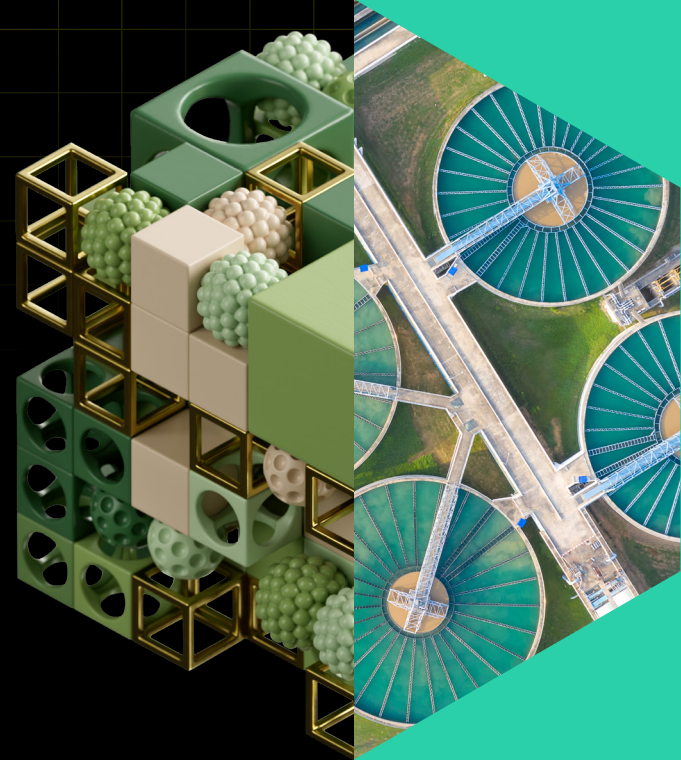
サプライチェーンの多様化がレジリエンスの向上を示唆

サプライチェーンの多様化に伴い、世界情勢をめぐる懸念が和らいでいます



調査の質問: 以下の記述について、どの程度同意しますか、あるいは同意しませんか? 5段階評価。上位2項目 = 「同意する」または「強く同意する」。

まとめ



絶え間ない変化の中でも成長できる企業を構築する

本レポート全体を通じて、一貫して浮かび上がったテーマがあります。それは、最大のビジネス価値を生み出している企業は、新しいテクノロジーに投資しているだけではないということです。こうした企業は、テクノロジー、市場、顧客の期待が進化し続ける中で、継続的に適応するために必要な組織能力を構築しています。

デザインと創造の業界全体で、その傾向は明らかです。デジタルトランスフォーメーションは、企業がより迅速に行動するために必要な、相互に連携したデータ、ワークフロー、事業運営の基盤を生み出しています。AIは、より適切な意思決定、ルーチンワークの自動化、新たな機会の発見

を支援しています。サステナビリティは、事業全体でより適切な意思決定の結果として実現されつつあります。コンバージェンスは、人材、専門知識、情報をチーム、専門分野、業界の枠を越えてつなぐことで、これらの能力を相互に強化しています。

これらの能力を組み合わせることで最大の力を発揮します。テクノロジーを、信頼できるデータ、熟練した人材、連携の取れたワークフローとつなげている企業は、混乱への対応、イノベーションの拡大、長期的により優れたビジネス成果を上げるための体制を整えています。



私たちがペースセッターと呼ぶ企業は、その実践が実際にどう行われるのかを示しています。ペースセッターに該当するのは、本調査に参加したビジネスリーダーと専門家の 11% にとどまりますが、一貫してメインストリームの企業グループを上回る成果を上げています。ペースセッターは、業績に対する期待を上回る割合が高く (85% 対 50%)、マクロ経済や地政学的な混乱に対する備えも整っており (93% 対 59%)、新しい製品やサービスを導入する割合 (92% 対 66%) も高くなっています。ここから得られる結論は何でしょうか。相互に連携した能力を構築する企業は、個別の取り組みを別々に進める企業よりも高い成果を上げています。

デザインと創造の業界がここから得られる示唆は、特定のテクノロジーだけにとどまりません。AI は今後も進化し続けます。サステナビリティに対する期待は、今後も高まり続けます。新たなテクノロジーが登場し、顧客の期待も変化し続けます。企業はこれから直面する混乱をすべて予測することはできませんが、より迅速に、確信を持って、レジリエンスを備えて対応するための能力を構築できます。

今求められているのは、一度限りの変革ではありません。変革を続けられる企業を構築することです。



「変化のスピードは非常に速く、後れを取った企業は追いつくことが難しくなる可能性があります。だからこそ私たちは、テクノロジーが成熟するのを待つのではなく、戦略、プロセス、プロジェクトにおける強固な基盤を今から構築しているのです」

PABLO BUENSUCESO PIÑA 氏
Hermosillo (メキシコのメヒカリを拠点とする設計・施工会社) VDC マネージャー

付録



この調査について

デザインと創造の業界は、アイデアを形にし、私たちを取り巻く世界を形づくる建物、インフラ、製品、映画を生み出しています。これらの業界では、世界全体で約2億9,600万人が働いており、デザインと創造は世界最大かつ最も影響力のあるセクターの1つとなっています。

『2027年度版デザインと創造の業界動向調査』は、建造された世界や製造された世界を、企業がどのようにデザイン・創造・運営しているかのトレンドを取り上げた、オートデスクの年次グローバル調査です。定量調査と経営幹部へのインタビューを組み合わせ、デザインと創造の業界を再形成しているテクノロジー、ビジネス上の優先事項、組織能力を明らかにしています。

本版は、建築・土木エンジニアリング・建設業界（AEC）、設計・製造業界（D&M）、メディア & エンターテインメント業界（M&E）の各分野に携わる5,500人のリーダーと専門家から得た回答に基づいており、23カ国のあらゆる規模の企業を対象としています。

この調査は2026年に実施されましたが、調査結果を今後1年間の計画や投資判断に役立てることを目的としているため、本版は2027年度版と題されています。前年比較では『2025年度版デザインと創造の業界動向調査』を参照しており、注記のある一部のトレンド分析には、オートデスクの『2025年度版デザインと創造の業界動向調査: デジタル トランスフォーメーション動向』および『2026年度版 AI 動向』の調査結果を使用しています。

5,500

定量調査の回答者数

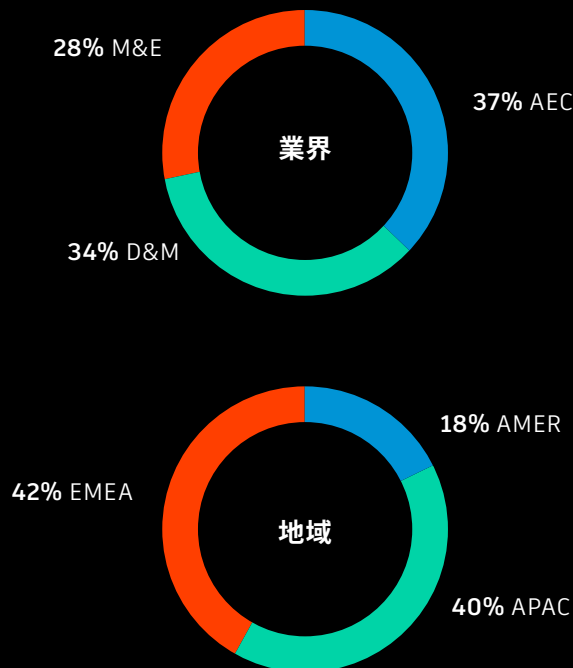
23

対象国数

26

定性インタビュー件数

回答者プロフィール



86%

自社で使用されている設計ソフトウェアに関する意思決定に影響を与える、または意思決定を行っている割合

15 年

業界経験の平均年数

35%

過去12カ月間にオートデスク製品を使用したと回答した人の割合

定量調査は、Statista と共同で20分間のオンライン アンケートを通じて実施しました。定性調査の結果は、ビジネスリーダーおよび業界の専門家への26件のインタビューに基づいています。すべての調査は2026年に実施しました。



用語集

ベースセッター

デジタル分野の成熟と、AI 分野のリーダーシップ、サステナビリティ分野のリーダーシップを同時に示している企業です。ベースセッターは、調査回答者の 11% を占めています。

メインストリーム

デジタル分野の成熟と、AI 分野のリーダーシップ、サステナビリティ分野のリーダーシップを、同時には示していない企業です。メインストリームの回答者は、調査回答者の 89% を占めています。

AI リーダー

AI 導入の道のりを「目標に近づいている」または「目標を達成した」と回答した企業です。

デジタル成熟度の高い企業

デジタルトランスフォーメーションの道のりを「目標に近づいている」または「目標を達成した」と回答した企業です。

サステナビリティ

本レポートにおけるサステナビリティは、通常は環境面のサステナビリティを指します。定性インタビューでは、国連による持続可能な開発の定義に沿って、環境、社会、ガバナンスの観点を含む、より広義の定義を回答者に提示しました。

サステナビリティ リーダー

自社が業界内でサステナビリティを牽引する役割を果たしているという意見に強く同意している企業です。

業種

建築、土木エンジニアリング、建設 (AEC) : 建築設計サービス、建物の所有者、土木インフラ所有者、建設サービス、エンジニアリング サービス プロバイダー、鉱業、石油・ガス、公益事業・通信。

設計・製造 (D&M) : 航空宇宙・防衛機器、自動車・モビリティ・その他の輸送 (サプライ チェーンを含む)、建築関連製品・製作、一般消費財、産業機械製造、ライフ サイエンス分野の製造、プロセス製造。

メディア & エンターテインメント (M&E) : 広告、出版およびグラフィック デザイン、映画およびテレビ、ゲーム。

地域

AMER: 北米、中米、南米

APAC: アジア太平洋地域

EMEA: 欧州・中東・アフリカ

謝辞

貴重な時間と専門知識を惜しみなく共有してくださった業界リーダーの皆様に、感謝申し上げます。皆様の見解は、本レポートと、併せて公開される分野別の詳細レポートの随所で紹介され、調査結果をより具体的に伝えています。



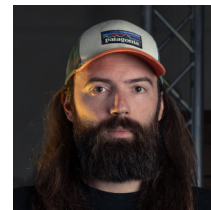
Grant Baker 氏
オーナー
Images & Sound



Ray Boff 氏
プレハブ工法部門
全国責任者
DPR



Pablo Buensuceso Piña 氏
VDC (バーチャルデザインと建設)
管理者
Hermosillo



Gabriele Gambotto 氏
共同創業者兼
最高技術責任者
(CTO)
Leva Engineering



Sagar S. Gandhi 氏
戦略・ビジネス エク
セレンス部門責任者
Shapoorji Pallonji -
Engineering &
Construction



Isadora Godley 氏
グローバル AI トラ
ンスフォーメーショ
ン担当バイス プレ
ジデント (VP)
Haworth



Julien Jean-Charland 氏
デジタル デリバ
リー部門ナショナ
ル ディレクター
CIMA+



YoungGeun Kim 氏
R&D
センター長
Kunhwa
Engineering &
Construction



Claire Lucas 氏
(教授)、CEng、
PFHEA、FIET
総括学部長兼
工学教育・スキル
担当教授
アストン大学



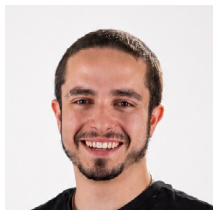
三戸景資氏
生産技術本部
建設DX基盤部 部長
清水建設株式会社



Natasha Luthra 氏
最高技術責任者
HKS



Rafael Passos Valadares 氏
エンジニアリング
ディレクター
Grupo Direcional |
Brazil



Ignasi Plaza 氏
最高経営責任者
(CEO) 兼共同創
業者
Protofy.xyz



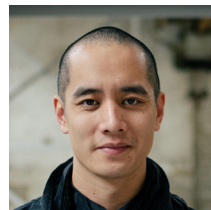
Isabelle Spiegel 氏
環境担当バイス
プレジデント (VP)
VINCI



Andrew Stanford 氏
水・海事部門グロー
バル テクニカル ディ
レクター
Haskoning



William Stewart 氏
マネージング ディレ
クター兼創業者
Belcanto Group



Nathan Su 氏
共同創業者
Inferstudio



轟朝幸氏 (教授)
理工学部長
日本大学



Niels Trelldal 氏
建築・産業部門シ
ニア テクニカル
ディレクター
COWI



Alex Turner 氏
デジタル コンスト
ラクション ディレ
クター
Oktra



Sheik Uduman 氏
BIM & デジタル テ
クノロジー
部門責任者
RSP Architects
Planners and
Engineers (Pte) Ltd



PK Vijay 氏
プロジェクト担当
ゼネラル マネー
ジャー兼執行委員
会メンバー (中央プ
ロジェクト組織)
ITC Limited



八牧健太氏
技術研究総括
基盤技術研究開発部
基盤技術開発室 室長
株式会社カプコン

写真未掲載:

ラジ・アラス、プラットフォーム サービスおよび新興テクノロジー担当エグゼクティブ バイス プレジデント (EVP) 兼最高技術責任者 (CTO)、オートデスク

ダイアナ・コレラ、インタラクティブ グラフィックス、メディア & エンターテインメント担当エグゼクティブ バイス プレジデント (EVP)、オートデスク

ロブ・ディッケンズ、チーフ オブ スタッフ 兼インキュベーション担当バイス プレジデント (VP)、オートデスク

マイク・ヘイリー、研究担当シニア バイス プレジデント (SVP)、オートデスク

メアリー・ホープ・マキンストン、バイス プレジデント (VP)、Autodesk Education Experiences

ジェフ・キンダー、製品開発・製造ソリューション担当エグゼクティブ バイス プレジデント (EVP)、オートデスク

マーカス・オブライエン、AutoCAD、インフラストラクチャ、リアリティ キャпча担当バイス プレジデント (VP)、オートデスク

ジョー・スパイカー、最高サステナビリティ責任者、オートデスク

オートデスクについて

オートデスクは、デザインと創造の手法に変革をもたらしています。そのテクノロジーは、建築、土木エンジニアリング、建設、運用、製品設計、製造、メディア & エンターテインメントの各分野にわたり、大小を問わずさまざまな課題の解決に取り組む世界中のイノベーターを支援しています。環境に配慮した建物から、よりスマートな製品、さらに人々を魅了する大ヒット作まで、オートデスクのソフトウェアは、お客様がすべての人にとってより良い世界をデザインし、創造できるよう支援しています。詳細については、<https://www.autodesk.com/jp> をご覧になるか、オートデスクのソーシャル メディアをフォローしてください。

オートデスクへのお問い合わせ: 本調査レポートに関するご質問や、今後の調査プログラムに参加するための登録方法については、state.of.design.and.make@autodesk.com にお問い合わせください。

このレポートに記載されている情報は、お客様の便宜を図るために、一般的な情報を提供することのみを目的としています。オートデスクは、このレポートに記載されている情報、テキスト、グラフィック、リンクなどについて、正確性と完全性を表明することも保証することはありません。

また、このレポートに示されるいかなる意見についても、それに従った場合に特定の成果または結果を達成できることを保証するものではありません。

© 2026 Autodesk, Inc. All rights reserved.